
2026年度（令和8年度）

授 業 計 画

（シラバス）

長野救命医療専門学校
救急救命士学科

(別表1)

2024・2025年度入学生用

医療職業実践専門課程											
救急救命士学科											
一般専門の別	教育内容	科目名	講義・実習の別	授業時間数及び単位数							
				1年次		2年次		3年次		合計	
				時間	単位	時間	単位	時間	単位	時間	単位
基礎分野	科学的思考の基盤 人間と人間生活	科学1	講義	60	4					60	4
		科学2	講義	60	4					60	4
		科学3	講義	60	4					60	4
		英語	講義	60	4					60	4
		人文科学	講義	60	4					60	4
		社会科学	講義	60	4					60	4
		体育	実習	60	2					60	2
		礼式訓練・体力錬成	実習	60	2	60	2	30	1	150	5
	小 計			480	28	60	2	30	1	570	31
専門分野基礎	人体の構造と機能	人体の構造と機能	講義	60	4					60	4
	疾患の成り立ちと回復の過程	疾患の成り立ちと回復の過程	講義			60	4			60	4
	健康と社会保障	健康と社会保障	講義					45	3	45	3
	小 計			60	4	60	4	45	3	165	11
専門分野	救急医学概論	救急医学概論	講義	45	3					45	3
		観察・評価	講義	45	3					45	3
		救急処置 1	講義	45	2					45	2
		救急処置 2	講義	45	2					45	2
	救急症候・病態生理学	救急症候・病態生理学 1	講義	30	2					30	2
		救急症候・病態生理学 2	講義	30	2					30	2
		救急症候・病態生理学 3	講義	30	2					30	2
		救急症候・病態生理学 4	講義	30	2					30	2
	疾病救急医学	呼吸器疾患	講義			15	1			15	1
		循環器疾患	講義			15	1			15	1
		消化器疾患	講義			15	1			15	1
		神経疾患	講義			15	1			15	1
		小児・妊産婦疾患	講義			15	1			15	1
		その他の疾患 1	講義			15	1			15	1
		その他の疾患 2	講義			15	1			15	1
		心電図	講義			15	1			15	1
	外傷救急医学	外傷総論	講義			30	2			30	2
		外傷各論	講義			45	3			45	3
	環境障害・急性中毒学	急性中毒学、環境に起因する疾患	講義					30	2	30	2
	臨地実習	早期体験実習	実習	45	1					45	1
		シミュレーション基本 1	実習	105	2					105	2
		シミュレーション基本 2	実習			180	4			180	4
		シミュレーション応用 1	実習			180	4			180	4
		シミュレーション応用 2	実習					230	5	230	5
		シミュレーション応用 3	実習					180	4	180	4
		救急自動車同乗実習	実習					45	1	45	1
		臨床実習	実習					180	4	180	4
	小 計			450	21	555	21	665	16	1670	58
特論分野	特別演習	特別演習1	講義			180	6			180	6
		特別演習2	講義					120	4	120	4
		特別演習3	講義					300	10	300	10
	小 計					180	6	420	14	600	20
合 計			990	53	855	33	1160	34	3005	120	

科 選 目 扱	科目名	講義・実習の別	授業時間数			
			1年次	2年次	3年次	合計
	山岳救命コース（講義）	講義		30		30
	山岳救命コース（登山実習）	実習		30		30
	小 計		0	60	0	60

(別表1)

2026年度入学生用

医療職業実践専門課程											
救急救命士学科											
一般専門の別	教育内容	科目名	講義・実習の別	授業時間数及び単位数							
				1 年次		2 年次		3 年次		合計	
				時間	単位	時間	単位	時間	単位	時間	単位
基礎分野	科学的思考の基盤 人間と人間生活	科学1	講義	60	4					60	4
		科学2	講義	60	4					60	4
		科学3	講義	60	4					60	4
		英語	講義	60	4					60	4
		人文科学	講義	60	4					60	4
		社会科学	講義	60	4					60	4
		体育	実習	60	2					60	2
		礼式訓練・体力錬成	実習	60	2	60	2	30	1	150	5
	小 計			480	28	60	2	30	1	570	31
専門分野基礎	人体の構造と機能	人体の構造と機能	講義	60	4					60	4
	疾患の成り立ちと回復の過程	疾患の成り立ちと回復の過程	講義			60	4			60	4
	健康と社会保障	健康と社会保障	講義					45	3	45	3
	小 計			60	4	60	4	45	3	165	11
専門分野	救急医学概論	救急医学概論	講義	45	3					45	3
		観察・評価	講義	45	3					45	3
		救急処置 1	講義	45	2					45	2
		救急処置 2	講義	45	2					45	2
	救急症候・病態生理学	救急症候・病態生理学 1	講義	30	2					30	2
		救急症候・病態生理学 2	講義	30	2					30	2
		救急症候・病態生理学 3	講義	30	2					30	2
		救急症候・病態生理学 4	講義	30	2					30	2
	疾病救急医学	疾病救急医学 1	講義			30	2			30	2
		疾病救急医学 2	講義			30	2			30	2
		疾病救急医学 3	講義			30	2			30	2
		疾病救急医学 4	講義			30	2			30	2
	外傷救急医学	外傷救急医学 1	講義			30	2			30	2
		外傷救急医学 2	講義			30	2			30	2
	環境障害・急性中毒学	環境障害・急性中毒学	講義					30	2	30	2
	臨地実習	早期体験実習	実習	45	1					45	1
		シミュレーション基本 1	実習	105	2					105	2
		シミュレーション基本 2	実習			180	4			180	4
		シミュレーション応用 1	実習			180	4			180	4
		シミュレーション応用 2	実習					230	5	230	5
シミュレーション応用 3		実習					180	4	180	4	
救急自動車同乗実習		実習					45	1	45	1	
臨床実習		実習					180	4	180	4	
小 計			450	21	540	20	665	16	1655	57	
特論分野	特別演習	特別演習1	講義			180	6			180	6
		特別演習2	講義					120	4	120	4
		特別演習3	講義					300	10	300	10
	小 計					180	6	420	14	600	20
合 計			990	53	840	32	1160	34	2990	119	

	科目名	講義・実習の別	授業時間数			
			1 年次	2 年次	3 年次	合計
科 選 目 扱	山岳救命コース（講義）	講義		30		30
	山岳救命コース（登山実習）	実習		30		30
	小 計		0	60	0	60

授 業 計 画

(2026年度)

救急救命士学科 1年生

授業科目 区 分	基礎	担当科目	科学1		単位数	4 単位	選択 必修	必修
					時間数	60 時間		
担当教員	(前期)柳澤 淳一 (後期)師岡 さとみ			受講学科	救急救命士学科		学 年	1 年
実務教員	-	実務経験	-					
実務経験 の運用								
学期区分	前期	月曜日	3 時限	講義室等	普通教室			
	後期	木曜日	3 時限	授業形式	講義			
授業のねらい、目標					成績評価の方法			
救急救命士並びに公務員に必要な知識を身に付け、広い視野で物事をとらえる力を身に付ける。					定期試験(筆記試験)			
教科書	公務員テキスト「自然科学」				参考書			
履修上の 注意事項	わからないところは積極的に質問すること。							
授業の計画(スケジュール)と授業の内容								
〈前 期〉				〈後 期〉				
第1回	物理(1) 力と運動1①			第1回	化学(1) 物質の構造①			
第2回	物理(2) 力と運動1②			第2回	化学(2) 物質の構造②			
第3回	物理(3) 力と運動2①			第3回	化学(3) 物質の構造③			
第4回	物理(4) 力と運動2②			第4回	化学(4) 物質の構造④			
第5回	物理(5) 力と運動・エネルギー①			第5回	化学(5) 物質の三態変化①			
第6回	物理(6) 力と運動・エネルギー②			第6回	化学(6) 物質の三態変化②			
第7回	物理(7) 波動①			第7回	化学(7) 溶液①			
第8回	物理(8) 波動③			第8回	化学(8) 溶液②			
第9回	物理(9) 電気物理学①			第9回	化学(9) 溶液③			
第10回	物理(10) 電気物理学②			第10回	化学(10) 酸・塩基①			
第11回	物理(11) 電気物理学③			第11回	化学(11) 酸・塩基②			
第12回	物理(12) 電気物理学④			第12回	化学(12) 酸化・還元①			
第13回	物理(13) 原子と原子核①			第13回	化学(13) 酸化・還元②			
第14回	物理(14) 原子と原子核②			第14回	化学(14) 無機化合物			
第15回	後期のまとめ 定期試験対策			第15回	前期のまとめ 定期試験対策			

授業科目 区 分	基礎	担当科目	科学2		単位数	4 単位	選択 必修	必修
					時間数	60 時間		
担当教員	中村 哲也			受講学科	救急救命士学科		学 年	1 年
実務教員	-	実務経験	-					
実務経験 の運用								
学期区分	前期	木曜日	3 時限	講義室等	普通教室			
	後期	金曜日	3 時限	授業形式	講義			
授業のねらい、目標				成績評価の方法				
救急救命士並びに公務員に必要な知識を身に付け、広い視野で物事をとらえる力を身に付ける。				定期試験(筆記試験)				
教科書	公務員テキスト「判断推理・資料解釈」			参考書				
履修上の 注意事項	わからないところは積極的に質問すること。							
授業の計画(スケジュール)と授業の内容								
〈前 期〉				〈後 期〉				
第1回	判断推理(1) 第2章 暗号①			第1回	前期の復習 前期試験問題解説			
第2回	判断推理(2) 第2章 暗号②			第2回	判断推理(15) 第1章 命題・論理①			
第3回	判断推理(3) 第3章 対応関係(1)勝敗			第3回	判断推理(16) 第1章 命題・論理②			
第4回	判断推理(4) 第4章 対応関係(2)対応			第4回	判断推理(17) 第5章 対応関係(3)類推			
第5回	判断推理(5) 第10章 位置①			第5回	判断推理(18) 第6章 対応関係(4)嘘つき問題①			
第6回	判断推理(6) 第10章 位置②			第6回	判断推理(19) 第6章 対応関係(4)嘘つき問題②			
第7回	判断推理(7) 第11章 方位①			第7回	判断推理(20) 第7章 順位・順序(1)序列・大小			
第8回	判断推理(8) 第11章 方位②			第8回	判断推理(21) 第8章 順位・順序(2)数値			
第9回	判断推理(9) 第13章 魔方陣①			第9回	判断推理(22) 第9章 順位・順序(3)追い越し・親族関係			
第10回	判断推理(10) 第13章 魔方陣②			第10回	判断推理(23) 第12章 集合①			
第11回	判断推理(11) 第14章 道順①			第11回	判断推理(24) 第12章 集合②			
第12回	判断推理(12) 第14章 道順②			第12回	判断推理(25) 第18章 平面図形(1)①			
第13回	判断推理(13) 第15章 手順			第13回	判断推理(26) 第18章 平面図形(1)②			
第14回	判断推理(14) 第16章 曜日			第14回	判断推理(27) 第18章 平面図形(1)③			
第15回	前期のまとめ 定期試験対策			第15回	前期のまとめ 定期試験対策			

授業科目 区 分	基礎	担当科目	科学3	単位数	4 単位	選択 必修	必修	
				時間数	60 時間			
担当教員	高崎 政久			受講学科	救急救命士学科		学 年	1 年
実務教員	-	実務経験	-					
実務経験 の運用								
学期区分	前期	月曜日	1時限	講義室等	パソコン室			
	後期	月曜日	1時限	授業形式	実技			
授業のねらい、目標				成績評価の方法				
救急救命士に必要な情報処理の知識と技術を習得し、実務で応用できる力を身に付ける。また、プレゼンテーション技術を習得し、国家試験や就職試験に必要なコミュニケーション能力を身に付ける。				課題の達成度と発表評価				
教科書	よくわかる Word2021 & Excel2021 & PowerPoint2021			参考書	よくわかる Word2021 & Excel2021 スキルアップ問題集(操作マスター編)			
履修上の 注意事項	課題は毎回授業時間内での評価になるので、欠席すると成績評価で減点となる。							
授業の計画(スケジュール)と授業の内容								
〈前 期〉				〈後 期〉				
第1回	Word(1) 文字入力			第1回	Excel(1) データの入力			
第2回	Word(2) コラム作成①			第2回	Excel(2) 表の書式設定			
第3回	Word(3) コラム作成②			第3回	Excel(3) 計算式・関数①			
第4回	Word(4) 表現力のある文書作成			第4回	Excel(4) 計算式・関数②			
第5回	Word(5) 表のある文書作成			第5回	Excel(5) 計算式・関数③			
第6回	PowerPoint(1) スライドの作成			第6回	Excel(6) 計算式・関数④			
第7回	PowerPoint(2) 図表の挿入、情報収集			第7回	Excel(7) グラフ①			
第8回	PowerPoint(3) 資料の作成①			第8回	Excel(8) グラフ②			
第9回	PowerPoint(4) 資料の作成②			第9回	Excel(9) オブジェクトの挿入、編集			
第10回	PowerPoint(5) 個人発表①			第10回	Excel(10) データベース①			
第11回	PowerPoint(6) 個人発表②			第11回	Excel(11) データベース②			
第12回	PowerPoint(7) 資料の作成③			第12回	Excel(12) ピボットテーブル			
第13回	PowerPoint(8) 資料の作成④			第13回	Excel(13) ドリル①			
第14回	PowerPoint(9) 個人発表③			第14回	Excel(14) ドリル②			
第15回	PowerPoint(10) 個人発表④			第15回	Excel(15) ドリル③			

授業科目 区 分	基礎	担当科目	英語		単位数	4 単位	選択 必修	必修
					時間数	60 時間		
担当教員	福澤 稔			受講学科	救急救命士学科		学 年	1 年
実務教員	-	実務経験	-					
実務経験 の運用								
学期区分	前期	水曜日	3 時限	講義室等	普通教室			
	後期	水曜日	3 時限	授業形式	講義			
授業のねらい、目標				成績評価の方法				
救急救命士並びに公務員に必要な知識を身に付け、広い視野で物事をとらえる力を養う。				定期試験(筆記試験)				
教科書	公務員テキスト 高校受験中3英語 他			参考書				
履修上の 注意事項	わからないところは積極的に質問すること。							
授業の計画(スケジュール)と授業の内容								
〈前 期〉				〈後 期〉				
第1回	ガイダンス Placement test			第1回	比較(Ⅰ) 形容詞・副詞の比較変化etc			
第2回	導入 Placement test 解説			第2回	比較(Ⅱ) 疑問詞で始まる比較の文etc			
第3回	動詞(現在形) be動詞の現在形、一般動詞の現在形			第3回	命令文・感嘆文 命令文、感嘆文			
第4回	動詞(過去形) be動詞の過去形、一般動詞の過去形			第4回	基本文型 文の要素と基本文型			
第5回	否定文・疑問文 否定文、疑問文と答え方			第5回	受動態(Ⅰ) 動詞の活用、受動態、by～の省略			
第6回	進行形 進行形の作り方、進行形を作らない動詞			第6回	受動態(Ⅱ) SVOO、SVOCの文型の受動態etc			
第7回	未来 未来の文、相手の意思をたずねる用法			第7回	現在完了(Ⅰ) 現在完了、現在完了の用法			
第8回	助動詞 助動詞、助動詞の働きをする語句			第8回	現在完了(Ⅱ) 注意すべき用法etc			
第9回	名詞 数えられる名詞と数えられない名詞 etc			第9回	不定詞(Ⅰ) 不定詞と用法			
第10回	代名詞(Ⅰ) 人称代名詞、指示代名詞、itの特別用法			第10回	不定詞(Ⅱ) want[ask、tell]…to～の用法etc			
第11回	代名詞(Ⅱ)・冠詞 不定代名詞・冠詞			第11回	動名詞 動名詞とその用法etc			
第12回	形容詞 形容詞の用法と位置、いろいろな形容詞			第12回	分詞 現在分詞とその用法etc			
第13回	副詞・部分否定 副詞の用法と位置、部分否定			第13回	関係代名詞 関係代名詞の用法etc			
第14回	疑問詞 疑問詞で始まる疑問文			第14回	接続詞・特別な疑問文 接続詞、付加疑問文・間接疑問文			
第15回	総合 前期まとめ			第15回	総合 後期まとめ			

授業科目 区 分	基礎	担当科目	社会科学		単位数	4 単位	選択 必修	必修
					時間数	60 時間		
担当教員	金原 正			受講学科	救急救命士学科		学 年	1 年
実務教員	-	実務経験	-					
実務経験 の運用								
学期区分	前期	木曜日	1 時限	講義室等	普通教室			
	後期	木曜日	1 時限	授業形式	講義			
授業のねらい、目標				成績評価の方法				
救急救命士並びに公務員に必要な知識を身に付け、広い視野で物事をとらえる力を養う。				定期試験(筆記試験)				
教科書	公務員テキスト ほか			参考書				
履修上の 注意事項								
授業の計画(スケジュール)と授業の内容								
〈前 期〉				〈後 期〉				
第1回	世界史16 終戦後(1)			第1回	政治7 選挙制度と政党政治／国際政治			
第2回	世界史17 終戦後(2)			第2回	経済1 市場の形態			
第3回	世界史18 文化史			第3回	経済2 景気と金融政策			
第4回	地理1 地図の図法／世界の地形			第4回	経済3 財政政策と税金・通貨			
第5回	地理2 世界の気候			第5回	経済4 国民所得と景気変動			
第6回	地理3 世界の産業			第6回	経済5 国際経済			
第7回	地理4 各国地誌、人種、言語 演習問題			第7回	経済6 日本の経済			
第8回	地理5 人口問題、都市問題、環境問題			第8回	倫理・社会1 労働関係			
第9回	地理6 日本の地誌			第9回	倫理・社会2 社会保障制度			
第10回	政治1 民主政治			第10回	倫理・社会3 青少年の心理			
第11回	政治2 日本国憲法			第11回	倫理・社会4 社会集団と現代社会の構造			
第12回	政治3 基本的人権			第12回	倫理・社会5 日本・東洋の思想(1)			
第13回	政治4 立法権・国会／行政権・内閣			第13回	倫理・社会6 日本・東洋の思想(2)			
第14回	政治5 行政権・内閣司法権・裁判所			第14回	倫理・社会7 西洋の思想(1)			
第15回	政治6 地方自治／選挙制度と政党政治			第15回	倫理・社会8 西洋の思想(2)			

授業科目 区 分	基礎	担当科目	人文科学		単位数	4 単位	選択 必修	必修
					時間数	60 時間		
担当教員	金原 正			受講学科	救急救命士学科		学 年	1 年
実務教員	-	実務経験	-					
実務経験 の運用								
学期区分	前期	木曜日	2 時限	講義室等	普通教室			
	後期	木曜日	2 時限	授業形式	講義			
授業のねらい、目標				成績評価の方法				
救急救命士並びに公務員に必要な知識を身に付け、広い視野で物事をとらえる力を養う。				定期試験(筆記試験)				
教科書	公務員テキスト ほか			参考書				
履修上の 注意事項								
授業の計画(スケジュール)と授業の内容								
〈前 期〉				〈後 期〉				
第1回	日本史1 旧石器時代～推古朝			第1回	世界史1 古代(1)			
第2回	日本史2 律令国家の形成～奈良時代(1)			第2回	世界史2 古代(2)			
第3回	日本史3 律令国家の形成～奈良時代(2)			第3回	世界史3 中世ヨーロッパ(1)			
第4回	日本史4 平安時代(1)			第4回	世界史4 中世ヨーロッパ(2)			
第5回	日本史5 平安時代(2)			第5回	世界史5 近代ヨーロッパの誕生			
第6回	日本史6 鎌倉時代			第6回	世界史6 近代国家の形成(1)			
第7回	日本史7 建武の新政～室町幕府(～応仁の乱)			第7回	世界史7 近代国家の形成(2)			
第8回	日本史8 戦国時代～桃山(織豊政権)時代			第8回	世界史8 中国史(古代～元)(1)			
第9回	日本史9 江戸時代(初期～三大改革)(1)			第9回	世界史9 中国史(古代～元)(2)			
第10回	日本史10 江戸時代(初期～三大改革)(2)			第10回	世界史10 中国史(明～)(1)			
第11回	日本史11 江戸末期			第11回	世界史11 中国史(明～)(2)			
第12回	日本史12 明治初期(～日清戦争)(1)			第12回	世界史12 南・西アジア史			
第13回	日本史13 明治初期(～日清戦争)(2)			第13回	世界史13 現代の社会(1)			
第14回	日本史14 明治中期～太平洋戦争(1)			第14回	世界史14 現代の社会(2)			
第15回	日本史15 明治中期～太平洋戦争(2)			第15回	世界史15 芸術史 演習問題			

授業科目 区 分	基礎	担当科目	体育	単位数	2 単位	選択 必修	必修	
				時間数	60 時間			
担当教員	山崎 絵美子			受講学科	救急救命士学科		学 年	1 年
実務教員	-	実務経験	-					
実務経験 の運用								
学期区分	前期	金曜日	2 時限	講義室等	東御市第一・第二体育館・グラウンド			
	後期	金曜日	2 時限	授業形式	演習			
授業のねらい、目標				成績評価の方法				
集団で体を動かすことによって、基礎体力を維持するとともに、社会性・協調性・精神的充実感を向上させる。				定期試験(多肢選択式および記述式筆記試験)で60点以上				
	2. 上履きを持参すること。							
授業の計画(スケジュール)と授業の内容								
〈前 期〉				〈後 期〉				
第1回	オリエンテーション(両学科合同) 授業概要・グループ決め			第16回	オリエンテーション 授業概要・グループ決め			
第2回	球技 ゲーム①			第17回	球技 ゲーム⑮			
第3回	球技 ゲーム②			第18回	球技 ゲーム⑯			
第4回	球技 ゲーム③			第19回	球技 ゲーム⑰			
第5回	球技 ゲーム④			第20回	球技 ゲーム⑱			
第6回	球技 ゲーム⑤			第21回	球技 ゲーム⑲			
第7回	球技 ゲーム⑥			第22回	球技 ゲーム⑳			
第8回	球技 ゲーム⑦			第23回	球技 ゲーム㉑			
第9回	球技 ゲーム⑧			第24回	球技 ゲーム㉒			
第10回	球技 ゲーム⑨			第25回	球技 ゲーム㉓			
第11回	球技 ゲーム⑩			第26回	球技 ゲーム㉔			
第12回	球技 ゲーム⑪			第27回	球技 ゲーム㉕			
第13回	球技 ゲーム⑫			第28回	球技 ゲーム㉖			
第14回	球技 ゲーム⑬			第29回	球技 ゲーム㉗			
第15回	球技 ゲーム⑭			第30回	球技 ゲーム㉘			

授業科目 区 分	基礎	担当科目	礼式訓練・体力錬成1	単位数	2 単位	選択 必修	必修	
				時間数	60 時間			
担当教員	武井 雅都			受講学科	救急救命士学科		学 年	1 年
実務教員	○	実務経験	救急救命士の資格を有し、消防署での勤務経験あり					
実務経験 の運用	消防官(救急救命士)としての現場経験を生かし、将来救急救命士を目指す学生たちに必要な知識・技術を養うとともに、消防署と救急救命士との関わりについて教育する。							
学期区分	前期	火曜日 1時限			講義室等	グラウンド・実習室		
	後期				授業形式	実習		
授業のねらい、目標					成績評価の方法			
礼節を明らかにして規律を正し、和衷協同にして団結を強固にし、確実軽快な部隊行動ができる。統制のある規律と精神力、体力増進の基礎を体得する。					実技試験			
教科書					参考書	消防訓練礼式の基準		
履修上の 注意事項	「号令」は大きな声ではっきりと、「行動」は機敏でかつ節度をもって臨むこと。 「服装」は端正にして統一されていること。							
授業の計画(スケジュール)と授業の内容								
〈前 期〉								
第1回	停止間の動作(1) 「気を付け」「整列休め」「休め」				体力錬成の概要 (1) ウォームアップ			
第2回	停止間の動作(2) 「気を付け」「整列休め」「休め」				(2) ランニング (3) 腕立て伏せ 100回			
第3回	停止間の動作(3) 「右向け右」「左向け左」「回れ右」				(4) 背筋 100回 (5) 腹筋 100回			
第4回	停止間の動作(4) 「右向け右」「左向け左」「回れ右」				(6) スクワット 100回 (7) バギージャンプ 20回			
第5回	行進間の動作(1) 「前へ進め・とまれ」「駆足進め・止まれ」				(8) ラウンジスクワット 20回 (9) 振幅横跳び 20回			
第6回	行進間の動作(2) 「回れ右前へ進め」「速足止まれ」				(10)ダッシュ 2本 (11)背走 2本			
第7回	行進間の動作(3) 「右・左向け前へ進め」「速足止まれ」				(12)ファイヤマンズキャリー (13)サドルバックキャリー			
第8回	行進間の動作(4) 「右・左向け前へ進め」「速足止まれ」				(14)手押し車 (15)クールダウン			
第9回	停止間から行進間への動作(1) 「側面縦隊の編成と行進」							
第10回	停止間から行進間への動作(2) 「側面縦隊の編成と行進」				注1 天候により訓練内容に変更あり。			
第11回	停止間から行進間への動作(3) 「側面縦隊の発進と停止」							
第12回	服装と手帳の点検 「帽子 上下衣 手帳」							
第13回	敬礼 「拳手・室内の敬礼」「目迎・目送の敬礼」							
第14回	点検要領(1) 「通常点検」実技試験①							
第15回	点検要領(2) 「通常点検」実技試験②							

授業科目 区 分	専門基礎	担当科目	人体の構造と機能	単位数	4 単位	選択 必修	必修	
				時間数	60 時間			
担当教員	瀧野 昌也			受講学科	救急救命士学科		学 年	1 年
実務教員	○	実務経験	医師の資格を有し、病院での臨床経験あり					
実務経験 の運用	医師としての臨床経験を生かし、将来救急救命士を目指す学生たちに必要な知識を養うとともに、病院と救急救命士との関わりについて教育する。							
学期区分	前期	水曜日	1, 2時限	講義室等	普通教室			
	後期			授業形式	講義			
授業のねらい、目標				成績評価の方法				
人体の構造と機能の基本を有機的に理解し、近い将来に履修する臨床的諸問題に結びつけて応用できるようになる。				定期試験(多肢選択式および記述式筆記試験)で60点以上を合格とする。				
教科書	救急救命士標準テキスト11版 p.52～p.152			参考書	マリーブ人体の構造と機能 第4 版			
履修上の 注意事項	半年間で集中的に履修する。							
授業の計画(スケジュール)と授業の内容								
〈前 期〉								
第1回	人体を構成する要素(1) 細胞 組織 器官			第16回	循環系(1)循環系の構成 心臓の構造 (心膜 心筋 心房 心室 弁)			
第2回	人体を構成する要素(2) 体液の分画 電解質 酸塩基平衡 浸透圧と膠質浸透圧			第17回	循環系(2) 刺激伝導系 心周期 冠循環 心臓のポンプ機能			
第3回	体表からみる人体の構造(1) 位置方向運動の用語 各部の構造(1)			第18回	循環系(3) 脈管 循環の制御 心臓模型の観察			
第4回	体表からみる人体の構造(2) 身体各部の構造(2)～身体各部の機能			第19回	消化系(1) 総論 消化管			
第5回	確認テスト① 人体を構成する要素～身体各部の機能			第20回	消化系(2) 肝臓 胆道系 膵臓 門脈 腹膜			
第6回	神経系(1) 神経系の構成と役割 大脳			第21回	確認テスト④ 循環系 消化系			
第7回	神経系(2) 間脳 小脳 脳幹 脊髄 脳室 髄膜 脳脊髄液			第22回	泌尿系 腎臓の構造と機能 尿路			
第8回	神経系(3) 脳神経 脊髄神経 伝導路			第23回	生殖系 男性生殖器 女性生殖器			
第9回	神経系(4) 脳循環 意識 反射 自律神経系 脳模型の観察			第24回	内分泌系 総論 主な内分泌器官とホルモン			
第10回	確認テスト② 神経系の構成と役割～自律神経系			第25回	確認テスト⑤ 泌尿系、生殖系、内分泌系			
第11回	感覚系 視覚 聴覚・平衡感覚 嗅覚 味覚 体性感覚			第26回	血液免疫系(1)血液 血球 血漿 造血 血液型 凝固と止血			
第12回	呼吸系(1) 呼吸系の構成 気道			第27回	血液免疫系(2)免疫 概念 機構 特異的免疫			
第13回	呼吸系(2) 胸郭 胸膜 換気のメカニズム 肺			第28回	筋骨格系、皮膚系 主な骨・骨格筋・関節 皮膚の構造と機能			
第14回	呼吸系(3) ガス交換 酸素運搬 呼吸の調節			第29回	生命の維持 栄養と代謝 エネルギーの産生 恒常性維持			
第15回	確認テスト③ 感覚系 呼吸系			第30回	確認テスト⑥ 血液免疫系～生命の維持			

授業科目 区 分	専 門	担当科目	救急医学概論	単位数	3 単位	選 択 必 修	必 修	
				時間数	45 時間			
担当教員	武井 雅都			受講学科	救急救命士学科		学 年	1 年
実務教員	○	実務経験	救急救命士の資格を有し、消防署での勤務経験あり					
実務経験 の運用	消防官(救急救命士)としての現場経験を生かし、将来救急救命士を目指す学生たちに必要な知識・技術を養うとともに、消防署と救急救命士との関わりについて教育する。							
学期区分	前期	水曜日1時限、金曜日3時限			講義室等	普通教室		
	後期				授業形式	講義		
授業のねらい、目標					成績評価の方法			
1. 救急医療の概念と体制について説明できる。 2. 災害医療の体制と救急活動を説明し、トリアージを実施できる。 3. 消防機関における救急活動、法令、生涯教育について説明できる。 4. 救急活動上の安全管理、感染対策、救急隊員の精神衛生について説明できる。					定期試験(筆記試験)			
教科書	救急救命士標準テキスト改訂第11版 P.208～293				参考書	標準 多数傷病者対応MCLSテキスト		
履修上の 注意事項	シラバスに沿った予習・復習を行うこと							
授業の計画(スケジュール)と授業の内容								
〈前 期〉								
第1回	救急医療体制 救急医療体制の概要			第16回	確認テスト③			
第2回	救急医療体制 消防機関と救急業務			第17回	救急救命士に関連する法令 法令の基本～救急救命士法			
第3回	救急医療体制 その他の機関による救急搬送体制			第18回	救急救命士に関する法令 医師法～その他の法令			
第4回	救急医療体制 メディカルコントロール体制			第19回	救急救命士の生涯教育 救急救命士の生涯教育の目的			
第5回	確認テスト①			第20回	確認テスト④			
第6回	災害医療体制 災害の概念、分類			第21回	安全管理と事故対応 安全管理の目的			
第7回	災害医療体制 災害拠点病院			第22回	安全管理と事故対応 救急活動で生じた事故への対応			
第8回	災害医療体制 多数傷病者対応			第23回	感染対策 感染予防策と感染防御～救急活動での感染防御			
第9回	災害医療体制 トリアージ			第24回	感染対策 衛生的手洗いの実施			
第10回	確認テスト②			第25回	感染対策 洗浄と消毒			
第11回	消防機関における救急活動の流れ 119番受信と通信体制			第26回	感染対策 各感染症への対応			
第12回	消防機関における救急活動の流れ 身体観察			第27回	ストレスに対するマネージメント 救急救命士とストレス			
第13回	救急救命士の役割と責任 通信体制			第28回	ストレスに対するマネージメント ストレスへの対応			
第14回	救急活動時のコミュニケーション 接遇とコミュニケーション			第29回	確認テスト⑤			
第15回	救急活動時のコミュニケーション 救急活動での説明			第30回	総復習テスト			

授業科目 区 分	専 門	担当科目	観 察・評 価	単位数	4 単位	選 択 必 修	必 修	
				時間数	60 時間			
担当教員	小林 拓幹			受講学科	救急救命士学科		学 年	1 年
実務教員	○	実務経験	救急救命士の資格を有し、救命救急センターでの勤務経験あり					
実務経験 の運用	救命救急センターでの現場経験を活かし、将来救急救命士を目指す学生たちに必要な知識・技術を養うとともに、救急隊員と救命救急センターとの連携について教育する。							
学期区分	前期	火曜日2時限、金曜日4時限			講義室等	普通教室・実習室		
	後期				授業形式	講義		
授業のねらい、目標					成績評価の方法			
1. 健常者において、全身および局所の所見を、正確な手技で実際に観察できる。 2. 資器材を用いた観察ができる。 3. 観察結果をもとに緊急度・重症度の判断ができる。					授業時間内に随時行う実技評価、および定期試験における筆記試験で評価する。			
教科書	救急救命士標準テキスト改定第11版 P296～346				参考書	人体の構造と機能 救急救命処置法 JPTEC		
履修上の 注意事項								
授業の計画(スケジュール)と授業の内容								
〈前 期〉								
第1回	観察① A 観察の目的と意義 B バイタルサイン			第16回	緊急度・重症度判断① A 緊急度と重症度 B 判断の基準(1)			
第2回	観察②・実技 C 観察の方法			第17回	緊急度・重症度判断② A 緊急度と重症度 B 判断の基準(2)			
第3回	全身状態の観察①・実技 A 外見の観察(1体位～12行動)			第18回	確認テスト②			
第4回	全身状態の観察②・実技 B、C 気道・呼吸に関する観察			第19回	資器材による観察①・実技 A パルスオキシメータ B カプノメータ			
第5回	全身状態の観察③・実技 D,E 循環・意識状態に関する観察			第20回	資器材による観察②・実技 C 聴診器 D 血圧計(1)			
第6回	全身状態の観察④・実技 A～Eの復習			第21回	資器材による観察③・実技 C 聴診器 D 血圧計(2)			
第7回	全身状態の観察⑤・実技 全身観察、バイタルサイン観察方法			第22回	資器材による観察④・実技① E 心電図モニター 十二誘導			
第8回	確認テスト①			第23回	実技② E 心電図モニター 十二誘導			
第9回	局所の観察①・実技 A 観察結果の表現 B 皮膚 C 頭部			第24回	実技③ E 心電図モニター 十二誘導(半自動除細動器)			
第10回	局所の観察②・実技 D 胸部・背部 E 腹部			第25回	実技④ E 十二誘導			
第11回	局所の観察③・実技 F鼠径部 G四肢 H手指 Jアルゴリズム			第26回	実技⑤ 実技試験 E 十二誘導			
第12回	局所の観察④ A～Jの復習			第27回	実技⑥ 実技試験 E 十二誘導			
第13回	実技試験① 全身観察			第28回	資機材による観察⑤・実技 F 体温計 G 血糖測定器			
第14回	実技試験② 全身観察			第29回	確認テスト③			
第15回	神経所見の観察① A運動機能～F神経学的異常の観察方法			第30回	復習			

授業科目 区 分	専 門	担当科目	救急救命1		単位数	2 単位	選 択 必 修	必 修
					時間数	45 時間		
担当教員	武井 雅都			受講学科	救急救命士学科		学 年	1 年
実務教員	○	実務経験	救急救命士の資格を有し、消防署での勤務経験あり					
実務経験 の運用	消防官(救急救命士)としての現場経験を生かし、将来救急救命士を目指す学生たちに必要な知識・技術を養うとともに、消防署と救急救命士との関わりについて教育する。							
学期区分	前期	月曜日2時限、火曜日3時限、木曜日4時限			講義室等	普通教室・実習室		
	後期				授業形式	講義・実習		
授業のねらい、目標					成績評価の方法			
1. 救急救命処置の定義を述べ、種類を列挙できる。 2. 救急救命処置の目的、適応、手技、合併症の説明ができる。 3. 特定行為以外の救急救命処置を生体又は人形で実施できる。					定期試験において筆記試験を行うとともに、 授業中の実技達成度が不足している者については 定期試験中に実技の再試験を行う。			
教科書	第11版 救急救命士標準テキスト				参考書	救急救命処置法 東京法令出版		
履修上の 注意事項	座学においては毎日の予習復習を怠らず、実習においては反復訓練の励行に努めること。 救急資器材等による怪我には十分注意すること。器具愛護の精神を大切にすること。							
授業の計画(スケジュール)と授業の内容								
〈前 期〉								
第1回	座学(1) 授業概要 気道確保 気道確保の種類と方法～気道異物除去			第16回	実習10 創傷処置 直接圧迫法・間接圧迫法・止血帯			
第2回	実習1 気道確保の実施要領、用手気道異物除去			第17回	実習11 創傷処置 三角巾・止血帯・副子固定			
第3回	座学(2) 吸引器・酸素投与 口腔内の吸引と酸素投与の適応と方法			第18回	実習12 創傷処置 フレイルチェスト・腸管脱出・開放性気胸に対する処置			
第4回	実習2 吸引器・酸素投与 器具を使用した吸引・酸素投与			第19回	座学(7) 固定処置 陰圧ギプス・ショックパンツ・KED・サムスリング			
第5回	座学(3) 人工呼吸法 成人・小児・乳児の人工呼吸方法			第20回	実習13 固定処置 バックボード・スクープ・サブストレッチャー・布担架			
第6回	実習4 成人・小児・乳児の人工呼吸 人工呼吸法 BVM 気管切開 デマンド・インハレータ取り扱い要領			第21回	実習14 固定処置 バックボード・スクープ・サブストレッチャー・布担架			
第7回	座学(4) 胸骨圧迫・自動心マッサージ器 成人・小児・乳児 1人法 2人法			第22回	座学(9) 救急蘇生法 成人の救急蘇生法			
第8回	実習5 胸骨圧迫 成人・小児・乳児 1人法 2人法			第23回	座学(10) 救急蘇生法 小児・乳児の救急蘇生法			
第9回	実習6 自動式心マッサージ器 (LUCAS)			第24回	実技15 心肺蘇生法 成人の救急蘇生法			
第10回	実習7 用手と器具による胸骨圧迫 用手と自動式(LUCAS)			第25回	実技16 心肺蘇生法 小児・乳児の救急蘇生法			
第11回	座学(5) 除細動器の構造と機能 除細動器の概要・構造と機能			第26回	座学(11) 在宅療法継続中の処置 呼吸補助療法 栄養補助療法			
第12回	実習8 除細動器取扱 除細動器の取扱要領			第27回	座学(12) 在宅療法継続中の処置 排泄補助療法 在宅注射療法 補助腎臓療法			
第13回	座学(6) 体位管理 体位の種類と適応			第28回	座学(13) 傷病者搬送 搬送総論・搬送方法・搬送手段 Drヘリの搬送と搬出・車 外搬出			
第14回	実習9 体位の適応と判断			第29回	実技17 搬出・救出 搬送方法と搬送手段			
第15回	座学(6) 創傷処置 止血・固定・創傷処置等の適応と判断			第30回	実技18 搬出・救出 車外救出と搬送手段			

授業科目 区 分	専 門	担当科目	救急救命2	単位数	2 単位	選 択 必 修	必 修	
				時間数	45 時間			
担当教員	武井 雅都			受講学科	救急救命士学科		学 年	1 年
実務教員	○	実務経験	救急救命士の資格を有し、消防署での勤務経験あり					
実務経験 の運用	消防官(救急救命士)としての現場経験を生かし、将来救急救命士を目指す学生たちに必要な知識・技術を養うとともに、消防署と救急救命士との関わりについて教育する。							
学期区分	前期				講義室等	普通教室・実習室		
	後期	月曜日3時限、火曜日2時限、水曜日3時限			授業形式	講義・実習		
授業のねらい、目標					成績評価の方法			
1. 特定行為の定義を説明し、その具体的な種類を列挙できる。 2. それぞれの特定行為の適応、禁忌、合併症を説明できる。 3. すべての特定行為を人形で実施できる。					授業時間内に実施する実技テストで評価する。 不合格者は定期試験期間中に再試験を行う。			
教科書	第11版 救急救命士標準テキスト				参考書	救急救命処置法 東京法令出版		
履修上の 注意事項	座学においては毎日の予習復習を怠らず、実習においては反復訓練の励行に努めること。 救急資器材等による怪我には十分注意すること。器具愛護の精神を大切にすること。							
授業の計画(スケジュール)と授業の内容								
〈後 期〉								
第1回	気管挿管の基礎知識(座学)			第16回	声門上気道デバイス等を用いた気道確保(2) コンビチューブ スミウエイWB ラリングアルチューブ			
第2回	喉頭展開(1)			第17回	実技テスト④ 声門上気道デバイス等を用いた気道確保			
第3回	喉頭展開(2)			第18回	静脈路確保とアドレナリンの投与の基礎知識(座学)			
第4回	喉頭展開(3)			第19回	静脈穿刺(1)			
第5回	気管挿管(1)			第20回	静脈穿刺(2)			
第6回	気管挿管(2)			第21回	静脈穿刺(3)			
第7回	気管挿管(3)			第22回	輸液路の準備と静脈穿刺(1)			
第8回	気管挿管とCPRの組合せ(1)			第23回	輸液路の準備と静脈穿刺(2)			
第9回	気管挿管とCPRの組合せ(2)			第24回	輸液路の準備と静脈穿刺(3)			
第10回	気管挿管とCPRの組合せ(3)			第25回	静脈路確保とアドレナリンの投与(1)			
第11回	気管挿管とCPRの組合せ(4)			第26回	静脈路確保とアドレナリンの投与(2)			
第12回	実技テスト② 気管挿管			第27回	静脈路確保、薬剤投与とCPRの組合せ(1)			
第13回	ビデオ硬性喉頭鏡を用いた気管挿管			第28回	静脈路確保、薬剤投与とCPRの組合せ(2)			
第14回	実技テスト③ ビデオ硬性喉頭鏡を用いた気管挿管			第29回	静脈路確保、薬剤投与とCPRの組合せ(3)			
第15回	声門上気道デバイス等を用いた気道確保(1) LM アイジェル 経鼻/経口エアウェイ			第30回	実技テスト⑤ 静脈確保と薬剤投与			

授業科目 区 分	専 門	担当科目	救急救命士2	単位数	2 単位	選 択 必 修	必 修	
				時間数	45 時間			
担当教員	武井 雅都			受講学科	救急救命士学科		学 年	1 年
実務教員	○	実務経験	救急救命士の資格を有し、消防署での勤務経験あり					
実務経験 の運用	消防官(救急救命士)としての現場経験を生かし、将来救急救命士を目指す学生たちに必要な知識・技術を養うとともに、消防署と救急救命士との関わりについて教育する。							
学期区分	前期				講義室等	普通教室・実習室		
	後期	月曜日3時限、4時限、火曜日2時限			授業形式	講義・実習		
授業のねらい、目標					成績評価の方法			
1. 特定行為の定義を説明し、その具体的な種類を列挙できる。 2. それぞれの特定行為の適応、禁忌、合併症を説明できる。 3. すべての特定行為を人形で実施できる。					授業時間内に実施する実技テストで評価する。 不合格者は定期試験期間中に再試験を行う。			
教科書	第11版 救急救命士標準テキスト				参考書	救急救命処置法 東京法令出版		
履修上の 注意事項	座学においては毎日の予習復習を怠らず、実習においては反復訓練の励行に努めること。 救急資器材等による怪我には十分注意すること。器具愛護の精神を大切にすること。							
授業の計画(スケジュール)と授業の内容								
〈後 期〉								
第31回	実技テスト⑥ 静脈確保と薬剤投与							
第32回	体液とその変動(座学)							
第33回	ショックに対する輸液(1)							
第34回	ショックに対する輸液(2)							
第35回	ショックに対する輸液(3)							
第36回	実技テスト⑦ ショックに対する輸液							
第37回	実技テスト⑧ ショックに対する輸液							
第38回	糖代謝と低血糖(座学)							
第39回	血糖測定の基礎、測定(座学) 糖代謝と低血糖(座学)							
第40回	ブドウ糖溶液の投与(1)							
第41回	ブドウ糖溶液の投与(2)							
第42回	ブドウ糖溶液の投与(3)							
第43回	ブドウ糖溶液の投与(4)							
第44回	実技テスト⑨ 静脈確保とブドウ糖溶液の投与							
第45回	実技テスト⑩ 静脈確保とブドウ糖溶液の投与							

授業科目 区 分	専門	担当科目	救急症候・病態生理学 1、2	単位数	4 単位	選択 必修	必修
				時間数	60 時間		
担当教員	武井 雅都		受講学科	救急救命士学科		学 年	1 年
実務教員	○	実務経験	救急救命士の資格を有し、消防署での勤務経験あり				
実務経験 の運用	医師、救急救命士としての現場経験を生かし、将来救急救命士を目指す学生たちに必要な知識を養うとともに、病院と救急救命士との関わりについて教育する。						
学期区分	前期			講義室等	普通教室		
	後期	水曜日	1, 2時限	授業形式	講義		
授業のねらい、目標				成績評価の方法			
1. 呼吸不全、心不全、ショック、重症脳障害、心肺停止に関する概念、病態、原因、症候、対応について、それぞれ説明できる。 2. 意識障害、頭痛、痙攣の原因、評価、対応について説明できる。				定期試験(多肢選択式および記述式筆記試験)で60点以上を合格とする。レポートの提出は定期試験受験の前提となる。			
教科書	救急救命士標準テキスト第11版 p.454-501			参考書			
履修上の 注意事項	救急症候病態生理学は、1、2、3、4の4科目を3名の教員で分担して授業を行う。						
授業の計画(スケジュール)と授業の内容							
〈後 期〉							
第1回	呼吸不全(1) 定義と概念 生体への影響 原因疾患 低酸素血症の機序(前半)		第16回	重症脳障害(1) 総論 発生機序 一次性・二次性脳病変 頭蓋内圧亢進			
第2回	呼吸不全(2) 低酸素血症の機序(後半) 高二氧化碳血症と換気障害		第17回	重症脳障害(2) 脳ヘルニア 特殊な意識障害			
第3回	確認テスト① 呼吸不全		第18回	確認テスト⑤ 重症脳障害			
第4回	心不全(1) 定義と概念 原因疾患		第19回	心肺停止(1) 定義と概念 疫学 心肺停止に至る病態			
第5回	心不全(2) 病態生理		第20回	心肺停止(2) 生体酸素状況 主な原因疾患 心電図分類			
第6回	心不全(3) 症候 種類 急性増悪		第21回	心肺停止(3) 心肺蘇生中の循環 心拍再開後の病態			
第7回	確認テスト② 心不全		第22回	確認テスト⑥ 心肺停止			
第8回	ショック(1) 定義と概念 種類と分類 病態		第23回	救急症候学 意識障害(1) 原因 随伴症候(前半)			
第9回	ショック(2) 循環血液量減少性ショック(1) 発生機序～体液変動		第24回	意識障害(2) 随伴症候(後半) 判別を要する病態 緊急度・重症度の判断 現場活動			
第10回	ショック(3) 循環血液量減少性ショック(2) 原因疾患 症候 現場活動		第25回	頭痛(1) 発症機序 分類 原因疾患			
第11回	確認テスト③ ショック総論 循環血液量減少性ショック		第26回	頭痛(2)発症の状況 性状 随伴症候 緊急度・重症度の判断 現場活動			
第12回	ショック(4) 心原性ショック		第27回	痙攣(1) 定義・概念 病態 分類 原因疾患			
第13回	ショック(5) 心外閉塞・拘束性ショック		第28回	痙攣(2)随伴症候 広義の痙攣 判別を要する病態 緊急度・重症度の判断 現場活動			
第14回	ショック(6) 血液分布異常性ショック		第29回	確認テスト⑦ 意識障害 頭痛 痙攣			
第15回	確認テスト④ 心原性ショック 心外閉塞・ 拘束性ショック 血液分布異常性ショック		第30回	復習			

授業科目 区 分	専 門	担当科目	救急症候・病態生理学 3	単位数	2 単位	選 択 必 修	必 修
				時間数	30 時間		
担当教員	小林 拓幹		受講学科	救急救命士学科		学 年	1 年
実務教員	○	実務経験	救急救命士の資格を有し、救命救急センターでの勤務経験あり				
実務経験 の運用	救命救急センターでの現場経験を活かし、将来救急救命士を目指す学生たちに必要な知識・技術を養うとともに、救急 隊員と救命救急センターとの連携について教育する。						
学期区分	前期			講義室等	普通教室		
	後期	火曜日	1時限	授業形式	講義		
授業のねらい、目標				成績評価の方法			
1. 救急で重要な症候を列挙できる。 2. 運動麻痺、めまい、呼吸困難、喀血、失神の原因、評価、対応につ いて説明できる。				定期試験(筆記試験)			
教科書	第11版 救急救命士標準テキスト P502～520			参考書			
履修上の 注意事項							
授業の計画(スケジュール)と授業の内容							
				〈後 期〉			
			第1回	運動麻痺(1) 定義・概念 発症機序 分類			
			第2回	運動麻痺(2) 原因疾患 随伴症候			
			第3回	運動麻痺(3) 判断を要する病態 緊急度・重症度の判断 現場活動			
			第4回	確認テスト① 運動麻痺			
			第5回	めまい(1) 定義・概念 発症機序 分類 原因疾患			
			第6回	めまい(2) 随伴症候 緊急度・重症度の判断 現場活動			
			第7回	呼吸困難(1) 定義・概念 分類 原因疾患			
			第8回	呼吸困難(2) 随伴症候 緊急度・重症度の判断 現場活動			
			第9回	確認テスト② めまい 呼吸困難			
			第10回	喀血(1) 定義・概念 分類 喀血による影響 原因疾患			
			第11回	喀血(2) 判断を要する病態 緊急度・重症度の判断 現場活動			
			第12回	一過性意識消失と失神(1) 定義・概念 原因			
			第13回	一過性意識消失と失神(2) 緊急度・重症度の判断 現場活動			
			第14回	確認テスト③ 喀血 一過性意識消失と失神			
			第15回	復習			

授業科目 区 分	専門	担当科目	救急症候・病態生理学 4	単位数	2 単位	選択 必修	必修
				時間数	30 時間		
担当教員	宮尾 政成		受講学科	救急救命士学科		学 年	1 年
実務教員	○	実務経験	救急救命士の資格を有し、救命救急センターでの勤務経験あり				
実務経験 の運用	救命救急センターでの現場経験を活かし、将来救急救命士を目指す学生たちに必要な知識・技術を養うとともに、救急隊員と救命救急センターとの連携について教育する。						
学期区分	前期			講義室等	普通教室		
	後期	火曜日	3時限	授業形式	講義		
授業のねらい、目標				成績評価の方法			
胸痛、動悸、腹痛、吐血・下血、腰痛・背部痛、体温上昇に関する概念、病態、原因、評価、対応について、それぞれ説明できる。				定期試験（筆記試験）			
教科書	救急救命士標準テキスト改訂第11版P.521～542			参考書			
履修上の 注意事項	シラバスに沿った予習・復習を行うこと						
授業の計画（スケジュール）と授業の内容							
				〈後 期〉			
			第1回	胸痛（1） 定義・概念～原因疾患			
			第2回	胸痛（2） 原因疾患～現場活動			
			第3回	動悸（1） 定義・概念～原因疾患			
			第4回	動悸（2） 随伴症候～現場活動			
			第5回	腹痛（1） 発生機序～原因疾患			
			第6回	腹痛（3） 原因疾患～現場活動			
			第7回	確認テスト① 胸痛 動悸 腹痛			
			第8回	吐血・下血（1） 定義・概念～病態			
			第9回	吐血・下血（2） 病態～現場活動			
			第10回	腰痛・背部痛（1） 定義・概念～重症度・緊急度の判断			
			第11回	腰痛・背部痛（2） 重症度・緊急度の判断～現場活動			
			第12回	体温上昇（1） 定義・概念～発熱の分類と種類			
			第13回	体温上昇（2） 発熱の分類と種類～現場活動			
			第14回	確認テスト② 吐血・下血 腰痛・背部痛 体温上昇			
			第15回	総復習テスト			

[illegible]

授業科目 区 分	専 門	担当科目	シミュレーション基本1	単位数	2 単位	選択 必修	必修	
				時間数	105 時間			
担当教員	川口 真廣、小林 拓幹、宮尾 政成、武井 雅都			学科	救急救命士学科		学 年	1 年
実務教員	○	実務経験	救急救命士の資格を有し、消防署や救命救急センターでの勤務経験あり					
実務経験 の運用	救急救命士としての現場経験を生かし、将来救急救命士を目指す学生たちに必要な知識・技術を養うとともに、消防署や救命救急センターと救急救命士との関わりについて教育する。							
学期区分	前期				講義室等	実習室		
	後期	火曜日～金曜日 3時限.4時限			授業形式	実習		
授業のねらい、目標					成績評価の方法			
短く単純なシナリオに沿って模擬傷病者の基本的な処置ができる。					試験については授業内及び試験期間中に実施する。救急活動の遂行能力と実施態度を評価する。所定の水準に達していない者は定期試験中に再試験を受けなければならない。			
教科書	第11版 救急救命士標準テキスト				参考書	救急救命処置法 東京法令出版		
履修上の 注意事項	実習はシラバスにより順次行うので予習は確実に先行い授業に臨むこと。 救急用資器材に精通すること。器具愛護の精神を大切にすること。 出席回数については、同一曜日同一時限毎に計算する。							
授業の計画(スケジュール)と授業の内容								
〈後 期〉				到達目標				
症例1	第1回 オリエンテーション			症例1	資器材の取り扱い(人形等)・活動方法について Simの仕方			
症例2	第2～3回 各種バックの中身使用方法			症例2	メインバック 酸素バック 外傷バック			
症例3	第4～5回 搬送用資機材①			症例3	エクステンジストレッチャー			
症例4	第6～7回 搬送用資機材②			症例4	スカッドメイド			
症例5	第8～9回 搬送用資機材③			症例5	サブストレッチャー			
症例6	第10～11回 搬送用資機材④			症例6	スクープストレッチャー			
症例7	第12～16回 心肺蘇生法 成人			症例7	心肺蘇生法 成人			
症例8	第17～21回 心筋梗塞からの心肺停止			症例8	心肺蘇生 除細動活動			
症例9	第22～25回 心臓振盪による心肺停止			症例9	心肺蘇生 除細動活動			
症例10	第26～29回 途中で心拍が再開する心肺停止			症例10	心肺蘇生 除細動活動 回復徴候			
症例11	第30～33回 心肺停止(溺水)			症例11	呼吸管理(BVM換気)			
症例12	第34～37回 窒息(気道異物除去後気道開通)			症例12	異物除去法			
症例13	第38～42回 心肺蘇生法 小児・乳児			症例13	心肺蘇生法 小児・乳児			
症例14	第43～46回 小児心肺停止(おもちゃが詰まった)			症例14	異物除去法			
症例15	第47～51回 全身観察 全身固定			症例15	全身観察 全身固定			

授業科目 区 分	専 門	担当科目	シミュレーション基本1	単位数	2 単位	選択 必修	必修	
				時間数	105 時間			
担当教員	川口 真廣、小林 拓幹、宮尾 政成、武井 雅都			学科	救急救命士学科		学 年	1 年
実務教員	○	実務経験	救急救命士の資格を有し、消防署や救命救急センターでの勤務経験あり					
実務経験 の運用	救急救命士としての現場経験を生かし、将来救急救命士を目指す学生たちに必要な知識・技術を養うとともに、消防署や救命救急センターと救急救命士との関わりについて教育する。							
学期区分	前期				講義室等	実習室		
	後期	火曜日～金曜日 3時限.4時限			授業形式	実習		
授業のねらい、目標					成績評価の方法			
短く単純なシナリオに沿って模擬傷病者の基本的な処置ができる。					試験については授業内及び試験期間中に実施する。救急活動の遂行能力と実施態度を評価する。所定の水準に達していない者は定期試験中に再試験を受けなければならない。			
教科書	第11版 救急救命士標準テキスト				参考書	救急救命処置法 東京法令出版		
履修上の 注意事項	実習はシラバスにより順次行うので予習は確実に先行き授業に臨むこと。 救急用資器材に精通すること。器具愛護の精神を大切にすること。 出席回数については、同一曜日同一時限毎に計算する。							
授業の計画(スケジュール)と授業の内容								
〈後 期〉				到達目標				
症例16	第52～56回 バイク事故(頸髄損傷)			症例16	全身観察 全身固定			
症例17	第57～60回 車に轢かれた(フレイルチェスト)			症例17	全身観察 全身固定 半周固定			
症例18	第61～64回 包丁で胸を刺された(開放性気胸)			症例18	全身観察 3辺テーピング			
症例19	第65～68回 包丁で腹を刺された(穿通性異物)			症例19	全身観察 異物固定法			
症例20	第69～72回 尻餅をついた際に前腕の骨折			症例20	軽傷者対応 四肢の固定法			
症例21	第73～77回 外傷の心肺停止			症例21	心肺蘇生法			
症例22	第78～81回 長距離搬送(心肺停止)			症例22	自動心マッサージ器			
症例23	第82～86回 意識のある傷病者の観察方法			症例23	問診 バイタルサイン 資機材取り扱い(血圧計等)			
症例24	第87～90回 気分不快と動悸			症例24	血糖測定			

授 業 計 画

(2026年度)

救急救命士学科 2年生

授業科目 区 分	基礎	担当科目	礼式訓練・体力錬成2	単位数	2 単位	選択 必修	必修	
				時間数	60 時間			
担当教員	川口 真廣			受講学科	救急救命士学科		学 年	2 年
実務教員	○	実務経験	救急救命士の資格を有し、消防署での勤務経験あり					
実務経験 の運用	将来救急救命士を目指す学生たちに必要な知識・技術を養うとともに、消防署と救急救命士との関わりについて教育する。							
学期区分	前期	金曜日	1時限	講義室等	グラウンドまたは実習室			
	後期	金曜日	1時限	授業形式	実習			
授業のねらい、目標				成績評価の方法				
礼節を明らかにして規律を正す。 体力増進の基礎を体得する。徽章授与式に向けて準備も行う。				定期実技試験				
教科書				参考書	消防訓練礼式の基準			
履修上の 注意事項	「号令」は大きな声ではっきりと、「行動」は機敏でかつ節度のある体動で臨むこと。							
授業の計画(スケジュール)と授業の内容								
〈前 期〉				〈後 期〉				
第1回	停止間の動作(1) 「気を付け」「整列休め」「休め」			第1回	停止間の動作(1) 「気を付け」「整列休め」「休め」			
第2回	停止間の動作(2) 「気を付け」「整列休め」「休め」			第2回	停止間の動作(2) 「気を付け」「整列休め」「休め」			
第3回	停止間の動作(3) 「右向け右」「左向け左」「回れ右」			第3回	停止間の動作(3) 「右向け右」「左向け左」「回れ右」			
第4回	停止間の動作(4) 「右向け右」「左向け左」「回れ右」			第4回	停止間の動作(4) 「右向け右」「左向け左」「回れ右」			
第5回	行進間の動作(1) 「前へ進め・とまれ」「駆足進め・とまれ」			第5回	行進間の動作(1) 「前へ進め・とまれ」「駆足進め・とまれ」			
第6回	行進間の動作(2) 「回れ右前へ進め」「速足止まれ」			第6回	行進間の動作(2) 「回れ右前へ進め」「速足止まれ」			
第7回	行進間の動作(3) 「右・左向け前へ進め」「速足止まれ」			第7回	行進間の動作(3) 「右・左向け前へ進め」「速足止まれ」			
第8回	行進間の動作(4) 「右・左向け前へ進め」「速足止まれ」			第8回	行進間の動作(4) 「右・左向け前へ進め」「速足止まれ」			
第9回	停止間から行進間の動作(1) 「側面縦隊の編成と行進」			第9回	停止間から行進間の動作(1) 「側面縦隊の編成と行進」			
第10回	停止間から行進間の動作(2) 「側面縦隊の編成と行進」			第10回	停止間から行進間の動作(2) 「側面縦隊の編成と行進」			
第11回	停止間から行進間の動作(3) 「側面縦隊の発進と停止」			第11回	停止間から行進間の動作(3) 「側面縦隊の発進と停止」			
第12回	服装・手帳の点検 「帽子 上下衣 手帳」			第12回	服装・手帳の点検 「帽子 上下衣 手帳」			
第13回	敬礼 「拳手の敬礼」「室内の敬礼」			第13回	敬礼 「拳手の敬礼」「室内の敬礼」			
第14回	点検要領(1) 「通常点検」実技試験①			第14回	点検要領(1) 「通常点検」実技試験①			
第15回	点検要領(2) 「通常点検」実技試験②			第15回	点検要領(2) 「通常点検」実技試験②			

授業科目 区 分	専門基礎	担当科目	疾患の成り立ちと 回復の過程	単位数	4 単位	選択 必修	必修	
				時間数	60 時間			
担当教員	宇都野 創			受講学科	救急救命士学科		学 年	2 年
実務教員	-	実務経験	-					
実務経験 の運用								
学期区分	前期	木曜日	3 時限	講義室等	普通教室			
	後期	金曜日	2 時限	授業形式	講義			
授業のねらい、目標				成績評価の方法				
1. 病理学上の基本概念を臨床例に即して説明できる。 2. 死体現象の概要と死の社会的意義について説明できる。 3. 医薬品の基本的事項について簡単に説明できる。 4. 救急医療で頻用される検査について簡単に説明できる。				定期試験(多肢選択式および記述式筆記試験)で60点以上を合格とする。				
教科書	救急救命士標準テキスト第10版 p.164-214			参考書				
履修上の注意								
授業の計画(スケジュール)と授業の内容								
〈前 期〉			〈後 期〉					
第1回	疾患 原因、発症と経過、回復、予防		第16回	死(1) 死の概念 死の疫学 死体現象				
第2回	細胞傷害		第17回	死(2) 死にかかわる手続きと検査 死体の尊厳				
第3回	炎症		第18回	確認テスト④ 死				
第4回	顕微鏡観察 (疾患、細胞傷害、炎症)		第19回	医薬品総論(1) 医薬品の概念 種類 有害作用				
第5回	確認テスト① 疾患～炎症		第20回	医薬品総論(2) 投与経路 体内動態				
第6回	感染(1) 感染と感染症 病原体と病原性 病原性微生物		第21回	確認テスト⑤ 医薬品総論				
第7回	感染(2) 感染の成り立ち 薬剤耐性		第22回	医薬品各論(1) 救急救命処置に用いられる薬剤				
第8回	循環障害(1) 虚血、梗塞、うっ血、浮腫		第23回	医薬品各論(2) 注意を要する常用薬				
第9回	循環障害(2) 出血 血液凝固 血栓 塞栓		第24回	医薬品各論(3) 重要な静脈内投与薬				
第10回	確認テスト② 感染 循環障害		第25回	確認テスト⑤ 医薬品各論				
第11回	腫瘍(1) 概念 種類 腫瘍の発生		第26回	検査(1) 種類 緊急検査 検体検査				
第12回	腫瘍(2) 悪性腫瘍		第27回	検査(2) 生理検査 画像検査 内視鏡検査				
第13回	損傷と治癒		第28回	確認テスト⑥ 検査				
第14回	顕微鏡観察 感染 循環障害 腫瘍		第29回	予備日				
第15回	確認テスト③ 腫瘍 損傷と治癒		第30回	予備日				

授業科目 区 分	専 門	担当科目	疾病救急医学1 (呼吸器・妊産婦・その他の疾患2)	単位数	2 単位	選択 必修	必修	
				時間数	30 時間			
担当教員	小林 尊志			受講学科	救急救命士学科		学 年	2 年
実務教員	○	実務経験	医師の資格を有し、病院での臨床経験あり					
実務経験 の運用	医師としての臨床経験を生かし、将来救急救命士を目指す学生たちに必要な知識を養うとともに、病院と救急救命士との関わりについて教育する。							
学期区分	前期	火曜日	1時限	講義室等	普通教室			
	後期			授業形式	講義			
授業のねらい、目標				成績評価の方法				
1. 主な呼吸系疾患、感染症及び筋骨格系疾患について簡単に説明できる。 2. 正常および異常な妊娠と分娩について簡単に説明できる。				定期試験(多肢選択式および記述式筆記試験)で60点以上を合格とする。				
教科書	救急救命士標準テキスト第11版			参考書				
履修上の 注意事項	肺血栓塞栓症の授業は循環器疾患で行う。							
授業の計画(スケジュール)と授業の内容								
〈前 期〉								
第1回	呼吸系疾患(1) 総論 上気道の疾患							
第2回	呼吸系疾患(2) 下気道と肺胞の疾患							
第3回	呼吸系疾患(3) 感染症 胸膜疾患							
第4回	呼吸系疾患(4) その他の呼吸系疾患 喫煙の害							
第5回	確認テスト① 呼吸系疾患							
第6回	感染症(1) 総論 敗血症 結核 インフルエンザ							
第7回	感染症(2) 食中毒 輸入感染症 発疹性感染症							
第8回	感染症(3) 性感染症 皮膚感染症 その他の感染症							
第9回	確認テスト② 感染症							
第10回	妊娠と分娩(1) 正常妊娠 異常妊娠と妊娠中の異常							
第11回	妊娠と分娩(2) 正常分娩 異常分娩							
第12回	妊娠と分娩(3) 観察と処置							
第13回	確認テスト③ 妊娠と分娩							
第14回	筋・骨格系疾患(1) 総論 脊椎疾患							
第15回	筋・骨格系疾患(2) 関節疾患 筋疾患 確認テスト④							

授業科目 区 分	専 門	担当科目	疾病救急医学2 (循環器・心電図・小児疾患)	単位数	2 単位	選 択 必 修	必 修	
				時間数	30 時間			
担当教員	瀧野 昌也			受講学科	救急救命士学科		学 年	2 年
実務教員	○	実務経験	医師の資格を有し、病院での臨床経験あり					
実務経験 の運用	医師としての臨床経験を生かし、将来救急救命士を目指す学生たちに必要な知識を養うとともに、病院と救急救命士との関わりについて教育する。							
学期区分	前期	木曜日	1時限	講義室等	普通教室およびPC教室			
	後期			授業形式	講義			
授業のねらい、目標				成績評価の方法				
1. 主な循環系疾患の概要を説明できる。急性心筋梗塞についてはやや詳しく説明できる。 2. 救急で重要な心電図所見が判断できる。 3. 主な小児疾患について簡単に説明できる。				定期試験(多肢選択式および記述式筆記試験)で評価する。心電図解読の試験は実際の心電図波形の判断を問う。いずれも60点以上を合格とする。				
教科書	救急救命士標準テキスト第11版			参考書	心電図の解説書(図書室に多数)			
履修上の 注意事項	心電図12誘導の実技は1年次の観察・評価で履修済みである。 心電図の授業はPC教室で行う。							
授業の計画(スケジュール)と授業の内容								
〈 前 期 〉								
第1回	循環系疾患(1) 総論 動脈硬化 虚血性心疾患総論 安定狭心症							
第2回	循環系疾患(2) 急性冠症候群							
第3回	循環系疾患(3) 心筋疾患 心膜疾患 その他の心疾患							
第4回	循環系疾患(4) 不整脈 大動脈疾患							
第5回	循環系疾患(5) その他の血管疾患 高血圧症							
第6回	確認テスト① 循環系疾患							
第7回	心電図(1) 心電図の基礎 頻脈性不整脈							
第8回	心電図(2) 徐脈性不整脈 期外収縮							
第9回	心電図(3) 心筋虚血 その他の心電図異常							
第10回	確認テスト② 心電図							
第11回	小児疾患(1) 総論 観察と判断							
第12回	小児疾患(2) 神経系疾患 呼吸系疾患							
第13回	小児疾患(3) 消化系疾患 感染症 溶血性尿毒症症候群							
第14回	小児疾患(4) 川崎病 SIDS 児童虐待							
第15回	確認テスト③ 小児疾患							

授業科目 区 分	専 門	担当科目	疾病救急医学3 (消化器・その他疾患1)	単位数	2 単位	選択 必修	必修	
				時間数	30 時間			
担当教員	瀧野 昌也			受講学科	救急救命士学科		学 年	2 年
実務教員	○	実務経験	医師の資格を有し、病院での臨床経験あり					
実務経験 の運用	医師としての臨床経験を生かし、将来救急救命士を目指す学生たちに必要な知識を養うとともに、病院と救急救命士との関わりについて教育する。							
学期区分	前期				講義室等	普通教室		
	後期	水曜日	3 時限		授業形式	講義		
授業のねらい、目標					成績評価の方法			
1. 主な消化系疾患、泌尿・生殖系疾患、代謝・内分泌・栄養疾患について簡単に説明できる。 2. 高齢者に特有な疾患を挙げ、それぞれ簡単に説明できる。					定期試験(多肢選択式および記述式筆記試験)で60点以上を合格とする。			
教科書	救急救命士標準テキスト第11版				参考書			
履修上の 注意事項								
授業の計画(スケジュール)と授業の内容								
				〈後 期〉				
			第1回	消化系疾患(1) 総論 歯・口腔疾患				
			第2回	消化系疾患(2) 消化管の疾患				
			第3回	消化系疾患(3) 腹膜炎 肝臓・胆嚢・膵臓の疾患				
			第4回	確認テスト① 消化系疾患				
			第5回	泌尿・生殖系疾患(1) 総論 腎不全 透析				
			第6回	泌尿・生殖系疾患(2) その他の腎疾患 尿路疾患 生殖器疾患				
			第7回	確認テスト② 泌尿・生殖系疾患				
			第8回	代謝・内分泌・栄養疾患(1) 総論 糖尿病				
			第9回	代謝・内分泌・栄養疾患(2) 糖尿病の合併症				
			第10回	代謝・内分泌・栄養疾患(3) その他の代謝異常 内分泌疾患 栄養疾患				
			第11回	確認テスト③ 代謝・内分泌・栄養疾患				
			第12回	高齢者疾患(1) 総論				
			第13回	高齢者疾患(2) 高齢者虐待 認知症				
			第14回	高齢者疾患(3) その他の高齢者疾患				
			第15回	確認テスト④ 高齢者疾患				

授業科目 区 分	専 門	担当科目	疾病救急医学4 (神経・その他疾患2)	単位数	2 単位	選択 必修	必修	
				時間数	30 時間			
担当教員	瀧野 昌也			受講学科	救急救命士学科		学 年	2 年
実務教員	○	実務経験	医師の資格を有し、病院での臨床経験あり					
実務経験 の運用	医師としての臨床経験を生かし、将来救急救命士を目指す学生たちに必要な知識を養うとともに、病院と救急救命士との関わりについて教育する。							
学期区分	前期				講義室等	普通教室		
	後期	水曜日	4時限		授業形式	講義		
授業のねらい、目標					成績評価の方法			
1. 主な神経疾患について簡単に説明できる。脳卒中についてはやや詳しく説明できる。 2. 主な精神障害、血液・免疫系疾患、感覚系疾患、皮膚の疾患について簡単に説明できる。アナフィラキシーについてはやや詳しく説明できる。					定期試験(多肢選択式および記述式筆記試験)で60点以上を合格とする。			
教科書	救急救命士標準テキスト第11版				参考書	病院前精神科救急 対応テキスト (ぱーそん書房)		
履修上の 注意事項								
授業の計画(スケジュール)と授業の内容								
〈前 期〉								
第1回	神経系疾患(1) 総論 脳血管障害総論							
第2回	神経系疾患(2) 脳梗塞 一過性脳虚血発作							
第3回	神経系疾患(3) くも膜下出血 脳出血							
第4回	神経系疾患(4) その他の中枢神経疾患 末梢神経疾患							
第5回	確認テスト① 神経系疾患							
第6回	精神障害(1) 精神の症候学 対応							
第7回	精神障害(2) 統合失調症 気分障害 その他の精神病							
第8回	精神障害(3) 神経症圏の障害 抗精神病薬の副作用							
第9回	確認テスト② 精神障害							
第10回	血液・免疫系疾患(1) 総論 血液疾患							
第11回	血液・免疫系疾患(2) 免疫疾患 アナフィラキシー							
第12回	眼・耳・鼻の疾患(1) 眼の疾患							
第13回	眼・耳・鼻の疾患(2) 耳の疾患 鼻の疾患							
第14回	皮膚の疾患 総論 感染症 アレルギー その他							
第15回	確認テスト③ 血液・免疫系疾患 眼・耳・鼻の疾患 皮膚疾患							

授業科目 区 分	専 門	担当科目	外傷救急医学	単位数	4 単位	選 択 必 修	必 修	
				時間数	60 時間			
担当教員	瀧野 昌也			受講学科	救急救命士学科		学 年	2 年
実務教員	○	実務経験	医師の資格を有し、病院での臨床経験あり					
実務経験 の運用	医師としての臨床経験を生かし、将来救急救命士を目指す学生たちに必要な知識を養うとともに、病院と救急救命士との関わりについて教育する。							
学期区分	前期				講義室等	普通教室		
	後期	木曜日1時限、2時限			授業形式	講義		
授業のねらい、目標					成績評価の方法			
1. 外傷の疫学、受傷機転、外傷に対する生体反応、外傷後のショック、および外傷の現場活動について、要点を説明できる。 2. 各部位の主な外傷の受傷機転、病態、症候、処置について説明できる。 3. 熱傷、化学損傷、電撃症・雷撃症、縊頸・絞頸、主な刺咬症について、それぞれ簡単に説明できる。					定期試験(多肢選択式および記述式筆記試験)で60点以上を合格とする。			
教科書	救急救命士標準テキスト第11版 p.688-782				参考書	JPTECガイドブック		
履修上の 注意事項								
授業の計画(スケジュール)と授業の内容								
〈 後 期 〉				〈 後 期 〉				
第1回	疫学と外傷システム 受傷機転(1) 受傷機転とエネルギー			第16回	腹部外傷			
第2回	受傷機転(2) 外傷の分類 主な受傷形態			第17回	骨盤外傷			
第3回	外傷の病態生理(1) 侵襲への反応			第18回	四肢外傷(1) 総論 骨折各論			
第4回	外傷の病態生理(2) 外傷に伴うショック 外傷に対する輸液			第19回	四肢外傷(2) 脱臼各論 特殊な損傷 現場活動			
第5回	確認テスト① 疫学と外傷システム～外傷の病態生理			第20回	確認テスト④ 腹部外傷～四肢外傷			
第6回	外傷の現場活動(1) 状況評価 初期評価 全身観察(前半)			第21回	小児・高齢者・妊婦の外傷			
第7回	外傷の現場活動(2) 全身観察(後半) 重点観察 判断 処置 搬送			第22回	熱傷(1) 疫学 受傷機転 病態 経過 合併症			
第8回	頭部外傷(1) 疫学 受傷機転 病態 頭皮・頭蓋骨の損傷			第23回	熱傷(2) 注意を要する熱傷 評価 現場活動			
第9回	頭部外傷(2) 各種頭蓋内損傷 続発症・後遺症 現場活動			第24回	化学損傷			
第10回	確認テスト② 外傷の現場活動～頭部外傷			第25回	確認テスト⑤ 小児・高齢者・妊婦の外傷～化学損傷			
第11回	顔面外傷 頸部外傷			第26回	電撃症 雷撃症			
第12回	脊椎外傷 脊髄損傷と関連障害			第27回	縊頸・絞頸・扼頸 刺咬症(1) 総論 哺乳類			
第13回	胸部外傷(1) 総論 心大血管系の損傷			第28回	刺咬症(2) 爬虫類 節足動物 海洋生物			
第14回	胸部外傷(2) 胸壁の損傷 呼吸系の損傷 現場活動			第29回	確認テスト⑥ 電撃症～刺咬症			
第15回	確認テスト③ 顔面外傷～胸部外傷			第30回	予備日			

授業科目 区 分	専 門	担当科目	シミュレーション基本 2	単位数	4 単位	選 択 必 修	必 修	
				時間数	180 時間			
担当教員	川口 真廣、小林 拓幹、宮尾 政成、武井 雅都			受講学科	救急救命士学科		学 年	2 年
実務教員	○	実務経験	救急救命士の資格を有し、消防署や救命救急センターでの勤務経験あり					
実務経験 の運用	救急救命士としての現場経験を生かし、将来救急救命士を目指す学生たちに必要な知識・技術を養うとともに、消防署や救命救急センターと救急救命士との関わりについて教育する。							
学期区分	前期	月～金 1週あたり7時限			講義室等	実習室		
	後期				授業形式	実習		
授業のねらい、目標					成績評価の方法			
1学年で習得した救急資器材の取り扱いを取り込み、現場活動に限局した単純で短いシナリオに沿ったシミュレーションが行える。					授業時間内に行う実技試験で評価する。 所定の水準に達していない者は定期試験中に再試験を受けなければならない。			
教科書	救急救命士標準テキスト改訂第11版				参考書	JPTECガイドブック改訂第2版		
履修上の 注意事項	シラバスに沿った症例について予習・復習をしっかりとすること 救急用資器材に精通すること							
授業の計画(スケジュール)と授業の内容								
〈前 期〉								
症例1	第1～4回 咳と痰による呼吸苦			症例16	第61～64回 頸部痛を訴えている			
症例2	第5～8回 ハチに刺され蕁麻疹と呼吸苦			症例17	第65～68回 2階から落ちた			
症例3	第9～12回 急に意識を失った			症例18	第69～72回 バイクの単独事故			
症例4	第13～16回 仕事中に卒倒			症例19	第73～76回 バイクの転倒による単独事故			
症例5	第17～20回 うまく喋れず、動くこともできない			症例20	第77～80回 2階から転落			
症例6	第21～24回 在宅酸素療法者の呼吸苦			症例21	第81～84回 喧嘩をして刃物で刺された			
症例7	第25～28回 リゾートホテルで心肺停止状態			症例22	第85～88回 炎天下で草刈後に気分不良			
症例8	第29～32回 動悸と息切れがする			症例23	第89～90回 親指をマル鋸で切断した			
症例9	第33～36回 胸痛が20分以上継続							
症例10	第37～40回 呼びかけても反応がない							
症例11	第41～44回 急激な胸痛							
症例12	第45～48回 運動後に呼吸苦							
症例13	第49～52回 急に血を吐いた							
症例14	第53～56回 いきなり倒れ痙攣している							
症例15	第57～60回 食事中に苦しみだした							

授業科目 区 分	専 門	担当科目	シミュレーション応用 1	単位数	4 単位	選 択 必 修	必 修	
				時間数	180 時間			
担当教員	川口 真廣、小林 拓幹、宮尾 政成			受講学科	救急救命士学科		学 年	2 年
実務教員	○	実務経験	救急救命士の資格を有し、消防署や救命救急センターでの勤務経験あり					
実務経験 の運用	救急救命士としての現場経験を生かし、将来救急救命士を目指す学生たちに必要な知識・技術を養うとともに、消防署や救命救急センターと救急救命士との関わりについて教育する。							
学期区分	前期				講義室等	実習室		
	後期	月～水、金	1週あたり7時間		授業形式	実習		
授業のねらい、目標					成績評価の方法			
1. すでに学んだ観察、処置の技術を迅速的確に応用できる。 2. 入電からの活動時間を次第に拡げ、最終的には車内収容までを含めた、やや複雑なシナリオに沿って、シミュレーション活動ができる。					授業時間内に行う実技試験で評価する。 所定の水準に達していない者は定期試験中に再試験を受けなければならない。			
教科書	救急救命士標準テキスト改訂第11版				参考書	JPTECガイドブック改訂第2版		
履修上の 注意事項	シラバスに沿った症例について予習・復習をしっかりとすること 救急用資器材に精通すること							
授業の計画(スケジュール)と授業の内容								
〈 後 期 〉				〈 後 期 〉				
症例1	第1～4回 家事の最中に気を失った			症例16	第61～64回 乗用車とバイクの衝突事故			
症例2	第5～8回 別荘で倒れていた			症例17	第65～68回 足場から落ちた			
症例3	第9～12回 家で倒れていた			症例18	第69～72回 乗用車同士の衝突事故			
症例4	第13～16回 呼吸困難を訴えている			症例19	第73～76回 喧嘩で腹を刺された			
症例5	第17～20回 呼びかけても反応が鈍い			症例20	症例20(第77～80回) 作業中にやけどした			
症例6	第21～24回 仕事中に呼吸困難			症例21	第81～84回 乗用車の単独事故			
症例7	第25～28回 仕事中に胸痛			症例22	第85～88回 赤ん坊が生まれそうだ			
症例8	第29～32回 呼吸困難と気分不良			症例23	第89～90回 妻が下腹部を痛がっている			
症例9	第33～36回 突然の胸痛							
症例10	第37～40回 腰を痛がっている							
症例11	第41～44回 息が苦しいと言っている							
症例12	第45～48回 就寝中に血を吐いた							
症例13	第49～52回 急に腹が痛くなった							
症例14	第53～56回 子どもが熱を出して苦しんでいる							
症例15	第57～60回 自動車の単独事故							

授業科目 区 分	専 門	担当科目	基本手技慣熟	単位数	3 単位	選 択 必 修	必 修	
				時間数	45 時間			
担当教員	宮尾 政成/武井 雅都			受講学科	救急救命士学科		学 年	2 年
実務教員	○	実務経験	救急救命士の資格を有し、消防署、救命救急センターでの勤務経験あり					
実務経験 の運用	救急救命士としての現場経験を生かし、将来救急救命士を目指す学生たちに必要な知識・技術を養うとともに、消防署や救命救急センターと救急救命士との関わりについて教育する。							
学期区分	前期	月曜日1時限、水曜日2時限			講義室等	シミュレーション実習室		
	後期				授業形式	実習		
授業のねらい、目標					成績評価の方法			
救急救命処置の実技については1年次で学んでいるが、そのうち特に重要で基本的なものについて、身体で覚えるまで繰り返し練習して習熟する。					授業時間内に行う小テストで評価する。 所定の水準に達していない者は定期試験中に再試験を受けなければならない。			
教科書	救急救命士標準テキスト第11版				参考書	JPTECガイドブック改訂第2版		
履修上の 注意事項	半年間で集中的に復習する。							
授業の計画(スケジュール)と授業の内容								
〈前 期〉								
第1回	用手気道確保			第16回	総合的な身体所見の観察①			
第2回	全身状態の迅速な評価 気道 呼吸 循環 意識			第17回	ログロール ストレッチャーの扱い			
第3回	バッグ・バルブ・マスクによる換気			第18回	総合的な身体所見の観察②			
第4回	バイタルサインの測定			第19回	小テスト 奇数回② 除細動～ストレッチャーの扱い			
第5回	胸骨圧迫			第20回	小テスト 偶数回② 背部骨盤四肢の観察～全身の総合的な観察			
第6回	意識レベルの判定(JCSおよびGCS)			第21回	直接圧迫止血法			
第7回	自動式心マッサージ(LUCAS)			第22回	心電図12誘導の測定①			
第8回	胸部と腹部の観察 視診 触診 聴診			第23回	ターニケット 止血帯			
第9回	小テスト 奇数回① 用手気道確保～LUCAS			第24回	心電図12誘導の測定②			
第10回	小テスト 偶数回① 全身状態の迅速な評価～胸部・腹部の観			第25回	静脈確保①			
第11回	除細動 適応判断(心電図) 除細動の実施			第26回	気管挿管① マスキントッシュ喉頭鏡使用			
第12回	背部・骨盤・四肢の観察			第27回	静脈確保②			
第13回	心肺蘇生法① 心停止の確認 胸骨圧迫 BVM換気			第28回	気管挿管② マスキントッシュ喉頭鏡使用/ビデオ喉頭鏡使用			
第14回	眼の観察 眼位 眼振 瞳孔径 対光反射			第29回	小テスト 奇数回③ 直接圧迫止血法～静脈確保			
第15回	心肺蘇生法②			第30回	小テスト 偶数回③ 心電図12誘導の測定～気管挿管			

授業科目 区 分	特論	担当科目	特別演習1 理系分野①②	単位数	6 単位	選択 必修	選択 必修 (公務員)	
				時間数	180 時間			
担当教員	柳澤 淳一			受講学科	救急救命士学科		学 年	2 年
実務教員	-	実務経験	-					
実務経験 の運用								
学期区分	前期	月曜日 1, 2時限		講義室等	普通教室			
	後期			授業形式	講義			
授業のねらい、目標				成績評価の方法				
救急救命士並びに公務員に必要な知識を身に付け、広い視野で物事をとらえる力を身に付ける。				定期試験(筆記試験)				
教科書	公務員テキスト「数学・数的処理」			参考書	科目別応用特訓テキスト 「数的推理」			
履修上の 注意事項	わからないところは積極的に質問すること。							
授業の計画(スケジュール)と授業の内容								
〈前 期〉								
第1回	数学(1) 第1章 数と式①		第16回	数学(16) 第5章 三角比①				
第2回	数学(2) 第1章 数と式②		第17回	数学(17) 第5章 三角比②				
第3回	数学(3) 第1章 数と式③		第18回	数学(18) 第5章 三角比③				
第4回	数学(4) 第1章 数と式④		第19回	数学(19) 第6章 数列①				
第5回	数学(5) 【補足】因数定理と剰余の定理		第20回	数学(20) 第6章 数列②				
第6回	数学(6) 第2章 方程式と不等式①		第21回	数的推理(1) 第1章 文章題①				
第7回	数学(7) 第2章 方程式と不等式②		第22回	数的推理(2) 第1章 文章題②				
第8回	数学(8) 【補足】解と係数の関係		第23回	数的推理(3) 第1章 文章題③				
第9回	数学(9) 第3章 関数①		第24回	数的推理(4) 第1章 文章題④				
第10回	数学(10) 第3章 関数②		第25回	数的推理(5) 第1章 文章題⑤				
第11回	数学(11) 第3章 関数③		第26回	数的推理(6) 第1章 文章題⑥				
第12回	数学(12) 第4章 関数のグラフと方程式・不等式①		第27回	数的推理(7) 第1章 文章題⑦				
第13回	数学(13) 第4章 関数のグラフと方程式・不等式②		第28回	数的推理(8) 第1章 文章題⑧				
第14回	数学(14) 第5章 関数のグラフと方程式・不等式③		第29回	数的推理(9) 第1章 文章題⑨				
第15回	前期のまとめ 定期試験対策		第30回	前期のまとめ 定期試験対策				

授業科目 区 分	特論	担当科目	特別演習1 理系分野③	単位数	2 単位	選択 必修	選択 必修 (公務員)	
				時間数	45 時間			
担当教員	中村 哲也			受講学科	救急救命士学科		学 年	2 年
実務教員	-	実務経験	-					
実務経験 の運用								
学期区分	前期	木曜日	4時限	講義室等	普通教室			
	後期			授業形式	講義			
授業のねらい、目標				成績評価の方法				
救急救命士並びに公務員に必要な知識を身に付け、広い視野で物事をとらえる力を身に付ける。				定期試験(筆記試験)				
教科書	公務員テキスト 「判断推理・資料解釈」			参考書	科目別応用特訓テキスト 「数的推理」			
履修上の 注意事項	わからないところは積極的に質問すること。							
授業の計画(スケジュール)と授業の内容								
〈前 期〉								
第1回	判断推理(28) 第19章 平面図形(2)①			第1回				
第2回	判断推理(29) 第19章 平面図形(2)②			第2回				
第3回	判断推理(29) 第20章 立体図形(1)①			第3回				
第4回	判断推理(30) 第20章 立体図形(1)②			第4回				
第5回	判断推理(30) 第21章 立体図形(2)①			第5回				
第6回	判断推理(31) 第21章 立体図形(2)②			第6回				
第7回	資料解釈(1) 第1章 資料解釈の基礎①			第7回				
第8回	資料解釈(2) 第1章 資料解釈の基礎①			第8回				
第9回	資料解釈(3) 第2章 構成比②			第9回				
第10回	資料解釈(4) 第3章 増減率①			第10回				
第11回	資料解釈(5) 第3章 増減率②			第11回				
第12回	資料解釈(6) 第4章 指数①			第12回				
第13回	資料解釈(7) 第4章 指数②			第13回				
第14回	資料解釈(8)			第14回				
第15回	前期のまとめ 定期試験対策			第15回				

授業科目 区 分	特 論	担当科目	特別演習1 理系分野④⑤	単位数	2 単位	選択 必修	選択 必修 (公務員)	
				時間数	45 時間			
担当教員	柳澤 淳一			受講学科	救急救命士学科		学 年	2 年
実務教員	-	実務経験	-					
実務経験 の運用								
学期区分	前期				講義室等	普通教室		
	後期	月曜日	1, 2時限		授業形式	講義		
授業のねらい、目標					成績評価の方法			
救急救命士並びに公務員に必要な知識を身に付け、広い視野で物事をとらえる力を身に付ける。					定期試験(筆記試験)			
教科書	公務員テキスト「数学・数的処理」				参考書	科目別応用特訓テキスト 「数的推理」		
履修上の 注意事項	わからないところは積極的に質問すること。							
授業の計画(スケジュール)と授業の内容								
〈後 期〉								
第1回	前期の復習 前期定期試験解説			第16回	数的推理(18) 第2章 図形①			
第2回	数的推理(10) 第3章 場合の数①			第17回	数的推理(19) 第2章 図形②			
第3回	数的推理(11) 第3章 場合の数②			第18回	数的推理(20) 第2章 図形③			
第4回	数的推理(12) 第3章 場合の数③			第19回	数的推理(21) 第2章 図形④			
第5回	数的推理(13) 第3章 場合の数④			第20回	数的推理(22) 第2章 図形⑤			
第6回	数的推理(14) 第3章 場合の数⑤			第21回	数的推理(23) 第2章 図形⑥			
第7回	数的推理(15) 第3章 場合の数⑥			第22回	数的推理(24) 第2章 図形⑦			
第8回	数的推理(16) 第3章 場合の数⑦			第23回	数的推理(25) 第2章 図形⑧			
第9回	数的推理(17) 第3章 場合の数⑧			第24回	数的推理(26) 第2章 図形⑨			
第10回	数的推理総合(1) 総合問題第1回			第25回	数的推理総合(2) 総合問題第6回			
第11回	数的推理総合(3) 総合問題第2回			第26回	数的推理総合(4) 総合問題第7回			
第12回	数的推理総合(5) 総合問題第3回			第27回	数的推理総合(6) 総合問題第8回			
第13回	数的推理総合(7) 総合問題第4回			第28回	数的推理総合(8) 総合問題第9回			
第14回	数的推理総合(9) 総合問題第5回			第29回	数的推理総合(10) 総合問題第10回			
第15回	後期のまとめ 定期試験対策			第30回	後期のまとめ 定期試験対策			

授業科目 区 分	特 論	担当科目	特別演習1 理系分野⑥⑦	単位数	2 単位	選択 必修	選択 必修 (公務員)	
				時間数	45 時間			
担当教員	小林 俊文			受講学科	救急救命士学科		学 年	2 年
実務教員	-	実務経験	-					
実務経験 の運用								
学期区分	前期				講義室等	普通教室		
	後期	木曜日	3, 4時限		授業形式	講義		
授業のねらい、目標					成績評価の方法			
救急救命士並びに公務員に必要な知識を身に付け、広い視野で物事をとらえる力を身に付ける。					定期試験(筆記試験)			
教科書	公務員テキスト 「自然科学」				参考書	科目別応用特訓テキスト 「自然科学」		
履修上の 注意事項	わからないところは積極的に質問すること。							
授業の計画(スケジュール)と授業の内容								
〈前 期〉								
第1回	生物(1) 細胞構造			第16回	地学(1) 地球の構造			
第2回	生物(2) 植物の調節作用			第17回	地学(2) 気圧と風①			
第3回	生物(3) 同化と異化①			第18回	地学(3) 気圧と風②			
第4回	生物(4) 同化と異化②			第19回	地学(4) 岩石①			
第5回	生物(5) 動物の恒常性と調節①			第20回	地学(5) 岩石②			
第6回	生物(6) 動物の恒常性と調節②			第21回	地学(6) 地殻変動・地震①			
第7回	生物(7) 動物の恒常性と調節③			第22回	地学(7) 地殻変動・地震②			
第8回	生物(8) 神経系の発達			第23回	地学(8) 地球と星の運動①			
第9回	生物(9) 遺伝の仕組みと遺伝子の本体①			第24回	地学(9) 地球と星の運動②			
第10回	生物(10) 遺伝の仕組みと遺伝子の本体②			第25回	地学(10) 補足			
第11回	生物(11) 遺伝の仕組みと遺伝子の本体③			第26回	自然科学総合(1) 総合問題①～③			
第12回	生物(12) 生殖と発生①			第27回	自然科学総合(2) 総合問題④～⑤			
第13回	生物(13) 生殖と発生②			第28回	自然科学総合(3) 総合問題⑥～⑧			
第14回	生物(14) 生物の進化・生態系と環境問題			第29回	自然科学総合(4) 総合問題⑨～⑩			
第15回	生物(15) 生物のまとめ(定期試験対策)			第30回	前期のまとめ 定期試験対策			

授業科目 区 分	特論	担当科目	特別演習1 理系分野③⑧	単位数	6 単位	選択 必修	選択 必修 (公務員)	
				時間数	180 時間			
担当教員	中村 哲也			受講学科	救急救命士学科		学 年	2 年
実務教員	-	実務経験	-					
実務経験 の運用								
学期区分	前期	木曜日	4時限	講義室等	普通教室			
	後期	金曜日	4時限	授業形式	講義			
授業のねらい、目標				成績評価の方法				
救急救命士並びに公務員に必要な知識を身に付け、広い視野で物事をとらえる力を身に付ける。				定期試験(筆記試験)				
教科書	公務員テキスト 「判断推理・資料解釈」			参考書	科目別応用特訓テキスト 「数的推理」			
履修上の 注意事項	わからないところは積極的に質問すること。							
授業の計画(スケジュール)と授業の内容								
〈前 期〉								
第1回	判断推理(28) 第19章 平面図形(2)①			第1回	理系総合(1) 総合問題(1)			
第2回	判断推理(29) 第19章 平面図形(2)②			第2回	理系総合(2) 総合問題(2)			
第3回	判断推理(29) 第20章 立体図形(1)①			第3回	理系総合(3) 総合問題(3)			
第4回	判断推理(30) 第20章 立体図形(1)②			第4回	理系総合(4) 総合問題(4)			
第5回	判断推理(30) 第21章 立体図形(2)①			第5回	理系総合(5) 総合問題(5)			
第6回	判断推理(31) 第21章 立体図形(2)②			第6回	理系総合(2) 総合問題(2)			
第7回	資料解釈(1) 第1章 資料解釈の基礎①			第7回	理系総合(3) 総合問題(3)			
第8回	資料解釈(2) 第2章 構成比①			第8回	理系総合(4) 総合問題(4)			
第9回	資料解釈(3) 第2章 構成比②			第9回	理系総合(5) 総合問題(5)			
第10回	資料解釈(4) 第3章 増減率①			第10回	理系総合(6) 総合問題(6)			
第11回	資料解釈(5) 第3章 増減率②			第11回	理系総合(3) 総合問題(3)			
第12回	資料解釈(6) 第4章 指数①			第12回	理系総合(4) 総合問題(4)			
第13回	資料解釈(7) 第4章 指数②			第13回	理系総合(5) 総合問題(5)			
第14回	資料解釈(8) 第5章 特殊なグラフ			第14回	理系総合(6) 総合問題(6)			
第15回	前期のまとめ 定期試験対策			第15回	後期のまとめ 定期試験対策			

授業科目 区 分	特論	担当科目	特別演習1 人文社会分野①③	単位数	6 単位	選択 必修	選択 必修 (公務員)	
				時間数	180 時間			
担当教員	金原 正			受講学科	救急救命士学科		学 年	2 年
実務教員	-	実務経験	-					
実務経験 の運用								
学期区分	前期	火曜日	3時限	講義室等	普通教室			
	後期	火曜日	2時限	授業形式	講義			
授業のねらい、目標				成績評価の方法				
救急救命士並びに公務員に必要な知識を身に付け、広い視野で物事をとらえる力を身に付ける。				定期試験(筆記試験)				
教科書	公務員テキスト「人文科学」			参考書	公務員問題集「人文科学」 科目別応用特訓テキスト「人文科学」			
履修上の 注意事項	わからないところは積極的に質問すること。							
授業の計画(スケジュール)と授業の内容								
〈前 期〉				〈後 期〉				
第1回	日本史(1) 第1章 旧石器時代～推古朝			第16回	世界史(3) 第3章 近代ヨーロッパの誕生			
第2回	日本史(2) 第2章 律令国家の形成～奈良時代			第17回	世界史(4) 第4章 近代国家の形成			
第3回	日本史(3) 第3章 平安時代			第18回	世界史(5) 第5章 東洋史			
第4回	日本史(4) 第4章 鎌倉時代			第19回	世界史(6) 第6章 現代の社会			
第5回	日本史(5) 第5章 建武の新政～室町時代(～応仁の乱)			第20回	世界史(7) 第7章 通史			
第6回	日本史(6) 第6章 戦国時代～桃山(織豊政権)時代			第21回	世界史(8) 第7章 通史			
第7回	日本史(7) 第7章 江戸時代(初期～三大改革)			第22回	世界史(9) まとめ			
第8回	日本史(8) 第8章 江戸末期			第23回	地理(1) 第1章 地図の図法			
第9回	日本史(9) 第9章 明治初期(～日清戦争)			第24回	地理(2) 第2章 世界の地形			
第10回	日本史(10) 第10章 明治中期～太平洋戦争			第25回	地理(3) 第3章 世界の気候			
第11回	日本史(11) 第11章 終戦後			第26回	地理(4) 第4章 世界の産業			
第12回	日本史(12) まとめ			第27回	地理(5) 第5章 各国地誌、人種、言語など			
第13回	世界史(1) 第1章 古代			第28回	地理(6) 第6章 人口問題、都市問題、環境問題			
第14回	世界史(1) 第1章 古代			第29回	地理(7) 第7章 日本の地誌			
第15回	世界史(2) 第2章 中世ヨーロッパ			第30回	地理(8) まとめ			

授業科目 区 分	特論	担当科目	特別演習1 人文社会分野②④	単位数	6 単位	選択 必修	選択 必修 (公務員)	
				時間数	180 時間			
担当教員	金原 正			受講学科	救急救命士学科		学 年	2 年
実務教員	-	実務経験	-					
実務経験 の運用								
学期区分	前期	火曜日	4時限	講義室等	普通教室			
	後期	火曜日	3時限	授業形式	講義			
授業のねらい、目標				成績評価の方法				
救急救命士並びに公務員に必要な知識を身に付け、広い視野で物事をとらえる力を身に付ける。				定期試験(筆記試験)				
教科書	公務員テキスト「社会科学」			参考書	公務員問題集「社会科学」 科目別応用特訓テキスト「社会科学」			
履修上の 注意事項	わからないところは積極的に質問すること。							
授業の計画(スケジュール)と授業の内容								
〈前 期〉			〈後 期〉					
第1回	政治(1) 第1章 民主政治		第16回	経済(6) 第6章 日本の経済				
第2回	政治(2) 第2章 日本国憲法		第17回	経済(7) まとめ				
第3回	政治(3) 第3章 基本的人権		第18回	倫理・社会(1) 第1章 労働関係				
第4回	政治(4) 第4章 立法権・国会		第19回	倫理・社会(2) 第2章 社会保障制度				
第5回	政治(5) 第5章 行政権・内閣		第20回	倫理・社会(3) 第3章 青年期の心理				
第6回	政治(6) 第6章 司法権・裁判所		第21回	倫理・社会(4) 第4章 社会集団と現代社会の構造				
第7回	政治(7) 第7章 地方自治		第22回	倫理・社会(5) 第5章 日本・東洋の思想				
第8回	政治(8) 第8章 選挙制度と政党政治		第23回	倫理・社会(6) 第6章 西洋の思想				
第9回	政治(9) 第9章 国際政治		第24回	倫理・社会(7) まとめ				
第10回	政治(10) まとめ		第25回	演習(1) 総合問題(1)				
第11回	経済(1) 第1章 市場の形態		第26回	演習(2) 総合問題(2)				
第12回	経済(2) 第2章 景気と金融政策		第27回	演習(3) 総合問題(3)				
第13回	経済(3) 第3章 財政政策と税金・通貨		第28回	演習(4) 総合問題(4)				
第14回	経済(4) 第4章 国民所得と景気変動		第29回	演習(5) 総合問題(5)				
第15回	経済(5) 第5章 国際経済		第30回	演習(6) 総合問題(6)				

授業科目 区 分	特 論	担当科目	特別演習2 就職対策講座	単位数	2 単位	選 択 必 修	選 択 必 修 (医療機関)	
				時間数	60 時間			
担当教員	山崎絵美子/川口真廣/宮尾政成			受講学科	救急救命士学科		学 年	2 年
実務教員	-	実務経験	-					
実務経験 の運用								
学期区分	前期	火曜日	3時限	講義室等	パソコン室			
	後期	火曜日	3.4時限	授業形式	講義			
授業のねらい、目標				成績評価の方法				
・自己分析や業界研究を行い、自分の目指す社会人像をイメージできる。 ・社会人が知るべきルールやマナーを理解する。				出席状況・授業態度・発表内容により評価する。				
教科書	-			参考書	-			
履修上の 注意事項	すべての学生は、公務員希望者用のコースまたは本科目のどちらかを選択して履修しなければならない。							
授業の計画(スケジュール)と授業の内容								
〈前期〉								
第1回	医療機関等での知識及び技術等の向上 コミュニケーション能力の習得及び向上 文章作成能力等の向上			第16回				
第2回				第17回				
第3回				第18回				
第4回				第19回				
第5回				第20回				
第6回				第21回				
第7回				第22回				
第8回				第23回				
第9回				第24回	自己分析①-1 はじめの一步 -自己分析-			
第10回				第25回	自己分析①-2 誰だって「なりたい自分」を持っている			
第11回				第26回	自己紹介 自己紹介をしてみよう			
第12回				第27回	社会で働くとは 社会が求める人になるための、自分なりの指針を作る			
第13回				第28回	ビジネスマナーと報・連・相① 基本的なビジネスマナーを知る			
第14回				第29回	ビジネスマナーと報・連・相② 仕事を円滑に進める秘訣			
第15回				第30回	総合 就職対策講座のまとめ			

授業科目 区 分	特論	担当科目	特別演習2 病院医療の基礎	単位数	1 単位	選択 必修	選択 必修 (医療機関)	
				時間数	30 時間			
担当教員	川口 真廣			受講学科	救急救命士学科		学 年	2 年
実務教員	○	実務経験	救急救命士と看護師の資格を有し、消防署での勤務経験あり					
実務経験 の運用	現場経験を活かし、将来救急救命士を目指す学生たちに必要な知識・技術を養うとともに、医療機関との関わりについて教育する。							
学期区分	前期	火曜日	2時限	講義室等	普通教室			
	後期			授業形式	講義			
授業のねらい、目標				成績評価の方法				
救急救命士が医療機関で勤務するにあたり必要となる制度上及び実務上の知識の基礎を身につける。				定期試験(多肢選択式および記述式筆記試験)で60点以上を合格とする。				
教科書	救急救命士標準テキスト 他			参考書				
履修上の 注意事項	すべての学生は、公務員希望者コースまたは本科目のどちらかを選択して履修しなければならない。							
授業の計画(スケジュール)と授業の内容								
〈前期〉								
第1回	救急救命士制度 成立 意義 概要 救急救命士法							
第2回	メディカルコントロール 概念 種類 院内メディカルコントロールの在り方							
第3回	救急救命処置 医療における位置づけ 定義 項目 実施条件と器具 指示 特定行為							
第4回	救急医療体制 救急告示病院 初期・二次・三次救急医療体制 救命救急センター							
第5回	医療の記録 救急救命処置録 診療録 電子カルテ							
第6回	事後検証 病院前救護における事後検証 院内処置の事後検証							
第7回	救急救命士の教育 養成 就業前研修 生涯研修 ワークステーション							
第8回	確認テスト① 救急救命士制度～救急救命士の教育							
第9回	病院前医療と病院医療の違い 法律 組織 医療従事者 医療行為							
第10回	チーム医療 関与する職種 業務分担 意思疎通の手段							
第11回	感染対策 感染経路別予防策 清潔と不潔 標準予防策 消毒薬							
第12回	医療安全 医療事故 医療過誤 医事訴訟 報告システム							
第13回	接遇 コミュニケーションの手法 インフォームドコンセント トラブルへの対応							
第14回	医薬品・医療機器の安全な使用 医薬品総論 救急外来で頻用される医薬品と機材							
第15回	確認テスト② 病院前医療と病院医療の違い～医薬品・医療機器の安全な使用							

授業科目 区 分	特 論	担当科目	特別演習2 重要な病態・疾患への対応	単位数	1 単位	選 択 必修	選 択 必修 (医療機関)	
				時間数	30 時間			
担当教員	吉池 昭一			受講学科	救急救命士学科		学 年	2 年
実務教員	○	実務経験	医師の資格を有し、病院での臨床経験あり					
実務経験 の運用	医師としての臨床経験を活かし、病院内で勤務する救急救命士が身につけておくべき諸事項の基本について教育する。							
学期区分	前期				講義室等	普通教室		
	後期	火曜日	3.4時限		授業形式	講義		
授業のねらい、目標					成績評価の方法			
重要な救急病態、救急疾患への対応を、病院勤務救急救命士の観点から理解する。					定期試験(多肢選択式および記述式筆記試験)で60点以上を合格とする。			
教科書	救急救命士標準テキスト 他				参考書			
履修上の 注意事項	すべての学生は、公務員希望者コースまたは本科目のどちらかを選択して履修しなければならない							
授業の計画(スケジュール)と授業の内容								
13:00~14:30 14:40~16:10	担当者(予定)			〈後期〉				
9月29日	救急救命士			第1回	呼吸不全 病態 評価 外来処置 気道確保と人工呼吸			
				第2回	心肺停止 原因 二次救命処置 特殊な蘇生法 心拍再開後の治療			
10月6日	救急救命士			第3回	アナフィラキシー 重症度判断 応急処置 ショック/気道閉塞への対応			
				第4回	熱中症 重症度の判断 冷却法			
10月13日	金子看護師			第5回	肺 炎 評価 細菌検査 外来処置 治療の概要			
				第6回	気管支喘息 評価 外来処置 気管支拡張薬			
10月20日	金子看護師			第7回	慢性呼吸器疾患 病態 評価 外来処置 NPPV			
				第8回	消化管出血 症候 鑑別 外来処置 内視鏡的止血			
10月27日	和泉看護師			第9回	急性冠症候群 評価 心電図 外来処置 再灌流療法			
				第10回	心不全 評価 外来処置 治療の概要			
11月10日	田中医師			第11回	動脈の急性病態 急性大動脈解離 大動脈瘤 急性四肢動脈閉塞			
				第12回	外 傷 多発外傷の評価 部位別の治療の概要 輸血			
11月17日	小山医師			第13回	意識障害 原因疾患 評価と鑑別 外来処置			
				第14回	ショック 種類と病態 外来処置 治療の概要			
11月24日	小山医師			第15回	脳卒中 種類 評価 画像診断 血栓溶解/回収療法			

授 業 計 画

(2026年度)

救急救命士学科 3年生

授業科目 区 分	基礎	担当科目	礼式訓練・体力錬成3	単位数	1 単位	選択 必修	必修	
				時間数	30 時間			
担当教員	小林 拓幹			受講学科	救急救命士学科		学 年	3 年
実務教員	○	実務経験	救急救命士の資格を有し、消防署での勤務経験あり					
実務経験 の運用	消防官(救急救命士)としての現場経験を活かし、将来救急救命士を目指す学生たちに必要な知識・技術を養うとともに、消防署と救急救命士との役割について教育する。							
学期区分	前期	金曜日	1時限	講義室等	グラウンド・実習室			
	後期			授業形式	実習			
授業のねらい、目標				成績評価の方法				
1. 礼節を明らかにして規律を正し、和衷共同にして団結を強固にし、確 実軽快な部隊行動ができる。 2. 将来消防官として職務遂行ができる統制のある規律と精神力、体力 増進の基礎を体得する。				定期試験(実技)				
教科書				参考書	消防訓練礼式の基準			
履修上の 注意事項	「号令」は大きな声ではっきりと、「行動」は機敏かつ節度のある体動で臨むこと。 「服装」は端正にして統一されていること。							
授業の計画(スケジュール)と授業の内容								
〈前 期〉								
第1回	実技試験① 体力錬成				体力錬成の概要			
第2回	停止間の動作(1) ・気を付け・整列休め・休め				(1) 柔軟体操 (2) ランニング (3) 腕立て伏せ 100回			
第3回	停止間の動作(2) ・右向け右・左向け左・回れ右				(4) 背筋 100回 (5) 腹筋 100回			
第4回	行進間の動作(1) ・前へ進め・速足止まれ・回れ右前へ進め				(6) スクワット 100回 (7) バービージャンプ 20回			
第5回	行進間の動作(2) ・右・左向け前へ進め・速足止まれ				(8) ラウジスクワット 20回 (9) 反復横跳び 20回			
第6回	停止間から行進間の動作 ・側面縦隊の行進				(10) ダッシュ 2本 (11) 背走 2本			
第7回	服装・手帳の点検 ・帽子・上下衣・手帳				(12) ファイヤーマンズキャリー (13) サドルバックキャリー			
第8回	敬礼 ・拳手の敬礼・室内の敬礼・部隊の敬礼				(14) 手押し車 (15) クールダウン			
第9回	点検要領(1) ・通常点検							
第10回	実技試験② 礼式・体力錬成							
第11回	実技試験③ 礼式・体力錬成							

授業科目 区 分	専門基礎	担当科目	健康と社会保障	単位数	3 単位	選択 必修	必修	
				時間数	45 時間			
担当教員	飯田 秀男			受講学科	救急救命士学科		学 年	3 年
実務教員	-	実務経験	-					
実務経験 の運用								
学期区分	前期	月曜日	4時限	講義室等	普通教室			
	後期	月曜日	4時限	授業形式	講義			
授業のねらい、目標				成績評価の方法				
1. 医療に携わる者として必要な法令を学び、倫理観を持つ。 2. 疾病の予防、健康の保持・増進を目的とした公衆衛生学の意義と各論を系統的に学び、地域保健活動や予防医学活動の重要性について認識を深めていく。 3. 人々が健康を享受するための望ましい社会制度や組織活動について学び、各種医療専門職の役割を理解することを目標とする。				定期試験で60点以上を合格とする。				
教科書	救急救命士標準テキスト第11版 p.18～48			参考書				
履修上の 注意事項	前期は臨床実習のため11回となる。							
授業の計画(スケジュール)と授業の内容								
〈前 期〉				〈後 期〉				
第1回	オリエンテーション 向性検査、人格検査			第12回	社会保障と社会福祉(7) 障害者福祉、高齢者福祉、公的扶助			
第2回	保健医療制度の仕組みと現状(1) 健康と公衆衛生			第13回	社会保障範囲 総復習			
第3回	保健医療制度の仕組みと現状(2) 医療を取り巻く環境(人口と少子高齢化)			第14回	保健医療制度の仕組みと現状(5) 食品衛生、環境衛生			
第4回	保健医療制度の仕組みと現状(3) 医療を取り巻く環境(死因～)			第15回	保健医療制度の仕組みと現状(6) 労働衛生、学校保健			
第5回	保健医療制度の仕組みと現状(4) 医療供給体制			第16回	保健医療制度の仕組みと現状(7) 母子保健、地域保健			
第6回	社会保障と社会福祉(1) 社会保障とその仕組み			第17回	保健医療制度の仕組みと現状(8) 精神保健			
第7回	社会保障と社会福祉(2) 社会保障給付費			第18回	総復習問題、解説 前期、後期範囲の総復習問題			
第8回	社会保障と社会福祉(3) 社会保険とは			第19回	試験対策問題、解説 定期試験類似問題			
第9回	社会保障と社会福祉(4) 医療保険制度			第20回	過去問題、解説 国家試験過去問題			
第10回	社会保障と社会福祉(5) 介護保険制度、年金保険制度			第21回	過去問題、解説 国家試験過去問題			
第11回	社会保障と社会福祉(6) 社会福祉とは～児童福祉			第22回	試験			
				第23回	試験問題解説			

授業科目 区 分	専 門	担当科目	急性中毒学、環境に起因する疾患	単位数	2 単位	選 択 必 修	必修	
				時間数	30 時間			
担当教員	瀧野 昌也			受講学科	救急救命士学科		学 年	3年
実務教員	○	実務経験	医師の資格を有し、病院での臨床経験あり					
実務経験 の運用	医師としての臨床経験を生かし、将来救急救命士を目指す学生たちに必要な知識を養うとともに、病院と救急救命士との関わりについて教育する。							
学期区分	前期	水曜日		3時限	講義室等	普通教室		
	後期				授業形式	講義		
授業のねらい、目標					成績評価の方法			
1. 重要な急性中毒を列挙し、それぞれの概要について説明できる。 2. 異物、溺水、熱中症、低体温症、放射線障害の病態、症候、処置について説明できる。 3. 上記以外の主な外因性疾患を挙げ、それぞれ簡単に説明できる。					定期試験(多肢選択式および記述式筆記試験)で60点以上を合格とする。			
教科書	救急救命士標準テキスト第11版 p.784～840				参考書			
履修上の 注意事項	臨床実習で抜ける4回分は夏季の補講で対応する。							
授業の計画(スケジュール)と授業の内容								
〈前 期〉								
第1回	急性中毒学(1) 概念 中毒物質と疫学 病態生理							
第2回	急性中毒学(2) 観察と処置 現場活動 中毒情報 医療機関での診療							
第3回	急性中毒学(3) 医薬品中毒 農薬中毒(1)							
第4回	急性中毒学(4) 農薬中毒(2) 工業用品中毒							
第5回	確認テスト① 急性中毒学(総論～工業用品中毒)							
第6回	急性中毒学(5) ガス中毒 アルコール中毒							
第7回	急性中毒学(6) 自然毒							
第8回	急性中毒学(7) 家庭用品中毒 乱用薬							
第9回	確認テスト② ガス中毒～乱用薬							
第10回	環境障害(1) 異物 溺水							
第11回	環境障害(2) 熱中症 偶発性低体温症							
第12回	環境障害(3) 放射線障害							
第13回	環境障害(4) 高山病 減圧障害 酸素欠乏症 凍傷 紫外線障害							
第14回	確認テスト③ 異物～紫外線障害							
第15回	予備日							

授業科目 区 分	専 門	担当科目	シミュレーション応用2	単位数	5 単位	選 択 必 修	必修	
				時間数	230 時間			
担当教員	川口 真廣、小林 拓幹、宮尾 政成、武井 雅都			受講学科	救急救命士学科		学 年	3 年
実務教員	○	実務経験	救急救命士の資格を有し、消防署や救命救急センターでの勤務経験あり					
実務経験 の運用	救急救命士としての現場経験を生かし、将来救急救命士を目指す学生たちに必要な知識・技術を養うとともに、消防署や救命救急センターと救急救命士との関わりについて教育する。							
学期区分	前期	月・水～金	1週あたり8時限		講義室等	実習室		
	後期				授業形式	実習		
授業のねらい、目標					成績評価の方法			
観察、判断、行動の各要素を合理的に実行しつつ、やや長く複雑な経過のシナリオに沿って行動できる。					試験については授業内及び試験期間中に実施する。救急活動の遂行能力と実施態度を評価する。所定の水準に達していない者は定期試験中に再試験を受けなければならない。			
教科書	救急救命士標準テキスト第11版				参考書	JPTECガイドブック改訂第2版		
履修上の 注意事項	シラバスに沿った症例について予習・復習をしっかりと行うこと 出席回数については、同一曜日同一時限毎に計算する。							
授業の計画(スケジュール)と授業の内容								
〈前 期〉								
症例1	第1～3回 ゴルフ中の強い頭痛			症例16	第46～48回 軽自動車の単独事故			
症例2	第4～6回 バイクと車の衝突			症例17	第49～51回 胸部の強い圧迫感			
症例3	第7～9回 女性が路地で倒れている			症例18	第52～54回 男性が車に跳ねられた			
症例4	第10～12回 包丁で刺された			症例19	第55～57回 胸の苦しさを訴えている			
症例5	第13～15回 血を吐いた			症例20	第58～60回 夫が自分で自分に火をつけた			
症例6	第16～18回 ベルトコンベアに腕を挟まれた			症例21	第61～63回 夫が急に倒れた			
症例7	第19～21回 胸痛を訴えている			症例22	第64～66回 隣家の新聞が溜まっている			
症例8	第22～24回 車に跳ねられて意識がない			症例23	第67～69回 夫が足の激痛を訴えている			
症例9	第25～27回 吐き気がする			症例24	第70～72回 別荘で夫婦が倒れている			
症例10	第28～30回 乗用車とトラックの衝突			症例25	第73～75回 子供がひきつけを起こしている			
症例11	第31～33回 手がしびれる			症例26	第76～78回 娘が風呂に落ちた			
症例12	第34～36回 重機と塀の間に挟まれた			症例27	第79～81回 しゃべることも動くこともできない			
症例13	第37～39回 頸の後ろが痛い			症例28	第82～84回 交通事故でけがをした			
症例14	第40～42回 子供がベッドから落ちた			症例29	第85～87回 急に手がしびれてきた			
症例15	第43～45回 5歳の子供が苦しんでいる			症例30	第88～90回 子供が犬に咬まれた			

授業科目 区 分	専 門	担当科目	シミュレーション応用3		単位数	4 単位	選 択 必修	必修
					時間数	180 時間		
担当教員	川口 真廣、小林 拓幹、宮尾 政成、武井 雅都			受講学科	救急救命士学科		学 年	3 年
実務教員	○	実務経験	救急救命士の資格を有し、消防署や救命救急センターでの勤務経験あり					
実務経験 の運用	救急救命士としての現場経験を生かし、将来救急救命士を目指す学生たちに必要な知識・技術を養うとともに、消防署や救命救急センターと救急救命士との関わりについて教育する。							
学期区分	前期	1 時限			講義室等	実習室および救急車内		
	後期	月、水～金 1 時限			授業形式	実習		
授業のねらい、目標					成績評価の方法			
1. 予想外の展開も加わる複雑なシナリオにおいて、臨機応変かつ迅速・正確に対応することができる。 2. 毎回変わるシナリオにおいて、シナリオの暗記に頼らず自分の観察と判断によって対応できる。 3. 119番通報から現場・救急車内及び医療機関到着までの想定訓練により一連の救急活動を模擬的に体験する。					試験については授業内及び試験期間中に実施する。 救急活動の遂行能力と実施態度を評価する。 所定の水準に達していない者は定期試験中に再試験を受けなければならない。			
教科書	第11版 救急救命士標準テキスト				参考書	JPTECガイドブック改訂第2版		
履修上の 注意事項	出席回数については、同一曜日同一時限毎に計算する。 聴取と観察により自分で情報を集めて判断させるために、毎回異なる未公表のシナリオを用いる。							
授業の計画(スケジュール)と授業の内容								
〈後 期〉								
第1回	救急車走行実習1		第16回	外因3	第31回	内因11	第46回	外因18
第2回	救急車走行実習2		第17回	内因4	第32回	外因11	第47回	内因19
第3回	救急車走行実習3		第18回	外因4	第33回	内因12	第48回	外因19
第4回	救急車走行実習4		第19回	外因5	第34回	外因12	第49回	内因20
第5回	救急車走行実習5		第20回	内因5	第35回	内因13	第50回	外因20
第6回	救急車走行実習6		第21回	外因6	第36回	外因13	第51回	内因21
第7回	救急車走行実習7		第22回	内因6	第37回	内因14	第52回	外因21
第8回	救急車走行実習8		第23回	外因7	第38回	外因14	第53回	内因22
第9回	救急車走行実習9		第24回	内因7	第39回	内因15	第54回	外因22
第10回	救急車走行実習10		第25回	外因8	第40回	外因15	第55回	内因23
第11回	外因1		第26回	内因8	第41回	内因16	第56回	外因23
第12回	内因1		第27回	外因9	第42回	外因16	第57回	内因24
第13回	内因2		第28回	内因9	第43回	内因17	第58回	外因24
第14回	外因2		第29回	内因10	第44回	外因17	第59回	内因25
第15回	内因3		第30回	外因10	第45回	内因18	第60回	外因25

授業科目 区 分	専 門	担当科目	シミュレーション応用3	単位数	4 単位	選 択 必 修	必 修	
				時間数	180 時間			
担当教員	川口 真廣、小林 拓幹、宮尾 政成、武井 雅都			受講学科	救急救命士学科		学 年	3 年
実務教員	○	実務経験	救急救命士の資格を有し、消防署や救命救急センターでの勤務経験あり					
実務経験 の運用	救急救命士としての現場経験を生かし、将来救急救命士を目指す学生たちに必要な知識・技術を養うとともに、消防署や救命救急センターと救急救命士との関わりについて教育する。							
学期区分	前期				講義室等	実習室および救急車内		
	後期	月、水～金			授業形式	実習		
授業のねらい、目標					成績評価の方法			
1. 予想外の展開も加わる複雑なシナリオにおいて、臨機応変かつ迅速・正確に対応することができる。 2. 毎回変わるシナリオにおいて、シナリオの暗記に頼らず自分の観察と判断によって対応できる。 3. 119番通報から現場・救急車内及び医療機関到着までの想定訓練により一連の救急活動を模擬的に体験する。					試験については授業内及び試験期間中に実施する。 救急活動の遂行能力と実施態度を評価する。 所定の水準に達していない者は定期試験中に再試験を受けなければならない。			
教科書	第11版 救急救命士標準テキスト				参考書	JPTECガイドブック改訂第2版		
履修上の 注意事項	出席回数については、同一曜日同一時限毎に計算する。							
授業の計画(スケジュール)と授業の内容								
〈後 期〉								
第61回	内因26	第76回	外因33					
第62回	外因26	第77回	内因34					
第63回	内因27	第78回	外因34					
第64回	外因27	第79回	内因35					
第65回	内因28	第80回	外因35					
第66回	外因28	第81回	内因36					
第67回	内因29	第82回	外因36					
第68回	外因29	第83回	内因37					
第69回	内因30	第84回	外因37					
第70回	外因30	第85回	内因38					
第71回	内因31	第86回	外因38					
第72回	外因31	第87回	内因39					
第73回	内因32	第88回	外因39					
第74回	外因32	第89回	内因40					
第75回	内因33	第90回	外因40					

授業科目 区 分	専 門	担当科目	救急自動車同乗実習	単位数	1 単位	選 択 必修	必修
				時間数	45 時間		
担当教員	施設責任者(実習管理者:宮尾)		受講学科	救急救命士学科		学 年	3 年
実務教員	○	実務経験	救急救命士の資格を有し、救命救急センターでの勤務経験あり				
実務経験 の運用	救命救急センターでの現場経験を活かし、将来救急救命士を目指す学生たちに必要な知識・技術を養うとともに、救急隊員と救命救急センターとの連携について教育する。						
学期区分	前期	5日間	1日8時間	講義室等	配属された消防署内、救急車内、救急現場		
	後期			授業形式	実習		
授業のねらい、目標				成績評価の方法			
1. 実際の救急活動に参加し、その全体像を把握する。 2. 救急救命士の業務を具体的に理解し、職業的態度と職業倫理を学ぶ。 3. 可及的に処置に参加し、知識・技術の向上を図る。				定期試験(多肢選択式および記述式筆記試験)で60点以上を合格とする。			
授業の計画(スケジュール)と授業の内容							
〈前 期〉			〈後 期〉				
第1回	1. 厚生労働省令に指定した項目を中心に、定められた水準に従って実習する。 2. 8月の1週間を充てる。具体的なスケジュールは施設ごとに設定する。 3. 実習時間は1日8時間を原則とする。 4. 直接の指導は実習施設の救急救命士が行い、本校教員は実習の調整と実習前後の補完的教育を行う。						
第2回							
第3回							
第4回							
第5回							
第6回							
第7回							
第8回							
第9回							
第10回							
第11回							
第12回							
第13回							
第14回							
第15回							

[illegible]

授業科目 区 分	特論	担当科目	特別演習2 理系総合	単位数	4 単位	選択 必修	選択 必修 (公務員)	
				時間数	120 時間			
担当教員	中村 哲也			受講学科	救急救命士学科		学 年	3 年
実務教員	-	実務経験	-					
実務経験 の運用								
学期区分	前期	春休み・火曜日	1・2・3時限	講義室等	普通教室			
		夏季休業	1・2時限	授業形式	講義			
授業のねらい、目標				成績評価の方法				
・救急救命士並びに公務員に必要な知識を身に付け、広い視野で物事をとらえる力を身に付ける。 ・消防採用試験の1次試験合格のための、知識を養う。				模擬試験の得点および公務員試験の結果による				
教科書	公務員テキスト「自然科学」 「判断推理・資料解釈」「数学・数的推理」			参考書	模擬試験問題全20回 総合問題集「数的処理」「自然科学」			
履修上の 注意事項	わからないところは積極的に質問すること。							
授業の計画(スケジュール)と授業の内容								
春休み/前期 1・2・3限				夏休み				
第1回	第1回校内模試、第1回模試理系解説			第16回	第18回校内模試、第18回模試理系解説			
第2回	第2回校内模試、第2回模試理系解説			第17回	第19回校内模試、第19回模試理系解説			
第3回	第3回校内模試、第3回模試理系解説			第18回	第20回校内模試、第20回模試理系解説			
第4回	第4回校内模試、第4回模試理系解説			第19回	理系総合問題(1)			
第5回	第5回校内模試、第5回模試理系解説			第20回	理系総合問題(2)			
第6回	第7回校内模試、第6・7回模試理系解説			第21回	理系総合問題(3)			
第7回	第9回校内模試、第8・9回模試理系解説			第22回	理系総合問題(4)			
第8回	第10回校内模試、第10回模試理系解説			第23回	理系総合問題(5)			
第9回	第11回校内模試、第11回模試理系解説			第24回	理系総合問題(6)			
第10回	第12回校内模試、第12回模試理系解説			第25回	理系総合問題(7)			
第11回	第13回校内模試、第13回模試理系解説			第26回	理系総合問題(8)			
第12回	第14回校内模試、第14回模試理系解説			第27回	理系総合問題(9)			
第13回	第15回校内模試、第15回模試理系解説			第28回	理系総合問題(10)			
第14回	第16回校内模試、第16回模試理系解説			第29回	理系総合問題(11)			
第15回	第17回校内模試、第17回模試理系解説			第30回	理系総合問題(12)			

授業科目 区 分	特論	担当科目	特別演習2 人文社会総合	単位数	3 単位	選択 必修	選択 必修 (公務員)	
				時間数	45 時間			
担当教員	大石 清一			受講学科	救急救命士学科		学 年	3 年
実務教員	-	実務経験	-					
実務経験 の運用								
学期区分	前期	木曜日	1・2時限	講義室等	普通教室			
		夏季休業	1・2時限	授業形式	講義			
授業のねらい、目標				成績評価の方法				
・救急救命士並びに公務員に必要な知識を身に付け、広い視野で物事をとらえる力を身に付ける。 ・消防採用試験の1次試験合格のための、知識を養う。				模擬試験の得点および公務員試験の結果による				
教科書	公務員テキスト「人文科学」「社会科学」 公務員問題集「人文科学」「社会科学」			参考書	模擬試験問題全20回 総合問題集「人文科学」「社会科学」			
履修上の 注意事項	わからないところは積極的に質問すること。							
授業の計画(スケジュール)と授業の内容								
前期 1・2限/夏休み								
第1回	第6回校内模試							
第2回	第8回校内模試							
第3回	第1・2回模試人文社会解説/総合問題							
第4回	第3・4回模試人文社会解説/総合問題							
第5回	第5・6回模試人文社会解説/総合問題							
第6回	第7・8回模試人文社会解説/総合問題							
第7回	第9・10回模試人文社会解説/総合問題							
第8回	第11・12回模試人文社会解説/総合問題							
第9回	第13・14回模試人文社会解説/総合問題							
第10回	第15・16回模試人文社会解説/総合問題							
第11回	第17・18回模試人文社会解説/総合問題							
第12回	第19・20回模試人文社会解説/総合問題							
第13回	総合問題							
第14回	総合問題							
第15回	総合問題							

授業科目 区 分	特論	担当科目	特別演習3 国家試験対策 A-③、B-③④⑥⑦	単位数	10 単位	選択 必修	必修	
				時間数	300 時間			
担当教員	小林 拓幹			受講学科	救急救命士学科		学 年	3 年
実務教員	○	実務経験	救急救命士の資格を有し、救命救急センターでの勤務経験あり					
実務経験 の運用	救命救急センターでの現場経験を活かし、将来救急救命士を目指す学生たちに必要な知識・技術を養うとともに、救命救急センターと救急救命士との役割について教育する。							
学期区分	前期	金曜日	3時限	講義室等	普通教室			
	後期	火曜日2限、水曜日1限、4限、木曜日3限			授業形式	講義		
授業のねらい、目標				成績評価の方法				
既修の領域を実践的な観点から整理し、理解を深めて知識を確実にする。				全国統一模擬試験の結果により評価する。				
教科書	救急救命士標準テキスト 他			参考書				
履修上の 注意事項								
授業の計画(スケジュール)と授業の内容								
〈前期〉				〈後期〉				
	第44.45.49回国家試験問題及び第1.3回校内模試問題をそれぞれの時限で解説				第44.45.49回国家試験問題及び第1.3回校内模試問題、をそれぞれの時限で解説			

[illegible]

授業科目 区 分	特 論	担当科目	特別演習3 国家試験対策 A-①	単位数	2 単位	選択 必修	必修	
				時間数	45 時間			
担当教員	武井 雅都			受講学科	救急救命士学科		学 年	3 年
実務教員	○	実務経験	救急救命士の資格を有し、消防署での勤務経験あり					
実務経験 の運用	消防官(救急救命士)としての現場経験を活かし、将来救急救命士を目指す学生たちに必要な知識・技術を養うとともに、消防署と救急救命士との役割について教育する。							
学期区分	前期	月曜日 3時限			講義室等	普通教室		
	後期				授業形式	講義		
授業のねらい、目標					成績評価の方法			
既修の領域を実践的な観点から整理し、理解を深めて知識を確実にする。					全国統一模擬試験の結果により評価する。			
教科書	救急救命士標準テキスト 他				参考書			
履修上の 注意事項								
授業の計画(スケジュール)と授業の内容								
〈前期〉					〈後期〉			
	第48回国家試験問題及び第4回校内模試 問題をそれぞれの時限で解説							

授業科目 区 分	特論	担当科目	特別演習2 就職対策講座	単位数	2 単位	選択 必修	選択 必修 (医療機関)	
				時間数	45 時間			
担当教員	山崎絵美子/川口真廣/宮尾政成			受講学科	救急救命士学科		学 年	3 年
実務教員	-	実務経験	-					
実務経験 の運用								
学期区分	前期	火曜日	3時限	講義室等	パソコン室			
	後期	火曜日	3.4時限	授業形式	講義			
授業のねらい、目標				成績評価の方法				
・自己分析や業界研究を行い、自分の目指す社会人像をイメージできる。 ・社会人が知るべきルールやマナーを理解する。				出席状況・授業態度・発表内容により評価する。				
教科書	-			参考書	-			
履修上の 注意事項	すべての学生は、公務員希望者用のコースまたは本科目のどちらかを選択して履修しなければならない。							
授業の計画(スケジュール)と授業の内容								
〈前期〉				後期				
第1回	医療機関等での知識及び技術等の向上 コ ミュニケーション能力の習得及び向上 文 章作成能力等の向上			第16回				
第2回				第17回				
第3回				第18回				
第4回				第19回				
第5回				第20回				
第6回				第21回				
第7回				第22回				
第8回				第23回				
第9回				第24回	自己分析①-1 はじめの一步 -自己分析-			
第10回				第25回	自己分析①-2 誰だって「なりたい自分」を持っている			
第11回				第26回	自己紹介 自己紹介をしてみよう			
第12回				第27回	社会で働くとは 社会が求める人になるための、自分なりの指針を作る			
第13回				第28回	ビジネスマナーと報・連・相① 基本的なビジネスマナーを知る			
第14回				第29回	ビジネスマナーと報・連・相② 仕事を円滑に進める秘訣			
第15回				第30回	総合 就職対策講座のまとめ			

授業科目 区 分	特 論	担当科目	特別演習2 病院医療の基礎		単位数	1 単位	選択 必修	選択 必修 (医療機関)
					時間数	30 時間		
担当教員	川口 真廣			受講学科	救急救命士学科		学 年	3 年
実務教員	○	実務経験	救急救命士と看護師の資格を有し、消防署での勤務経験あり					
実務経験 の運用	現場経験を活かし、将来救急救命士を目指す学生たちに必要な知識・技術を養うとともに、医療機関との関わりについて教育する。							
学期区分	前期	火曜日		2時限	講義室等	普通教室		
	後期				授業形式	講義		
授業のねらい、目標					成績評価の方法			
救急救命士が医療機関で勤務するにあたり必要となる制度上及び実務上の知識の基礎を身につける。					定期試験(多肢選択式および記述式筆記試験)で60点以上を合格とする。			
教科書	救急救命士標準テキスト 他				参考書			
履修上の 注意事項	すべての学生は、公務員希望者コースまたは本科目のどちらかを選択して履修しなければならない。							
授業の計画(スケジュール)と授業の内容								
〈前期〉								
第1回	救急救命士制度 成立 意義 概要 救急救命士法							
第2回	メディカルコントロール 概念 種類 院内メディカルコントロールの在り方							
第3回	救急救命処置 医療における位置づけ 定義 項目 実施条件と器具 指示 特定行為							
第4回	救急医療体制 救急告示病院 初期・二次・三次救急医療体制 救命救急センター							
第5回	医療の記録 救急救命処置録 診療録 電子カルテ							
第6回	事後検証 病院前救護における事後検証 院内処置の事後検証							
第7回	救急救命士の教育 養成 就業前研修 生涯研修 ワークステーション							
第8回	確認テスト① 救急救命士制度～救急救命士の教育							
第9回	病院前医療と病院医療の違い 法律 組織 医療従事者 医療行為							
第10回	チーム医療 関与する職種 業務分担 意思疎通の手段							
第11回	感染対策 感染経路別予防策 清潔と不潔 標準予防策 消毒薬							
第12回	医療安全 医療事故 医療過誤 医事訴訟 報告システム							
第13回	接遇 コミュニケーションの手法 インフォームドコンセント トラブルへの対応							
第14回	医薬品・医療機器の安全な使用 医薬品総論 救急外来で頻用される医薬品と機材							
第15回	確認テスト② 病院前医療と病院医療の違い～医薬品・医療機器の安全な使用							

授業科目 区 分	特 論	担当科目	特別演習2 重要な病態・疾患への対応	単位数	1 単位	選 択 必修	選 択 必修 (医療機関)	
				時間数	30 時間			
担当教員	吉池 昭一			受講学科	救急救命士学科		学 年	3 年
実務教員	○	実務経験	医師の資格を有し、病院での臨床経験あり					
実務経験 の運用	医師としての臨床経験を活かし、病院内で勤務する救急救命士が身につけておくべき諸事項の基本について教育する。							
学期区分	前期				講義室等	普通教室		
	後期	火曜日	3.4時限		授業形式	講義		
授業のねらい、目標					成績評価の方法			
重要な救急病態、救急疾患への対応を、病院勤務救急救命士の観点から理解する。					定期試験(多肢選択式および記述式筆記試験)で60点以上を合格とする。			
教科書	救急救命士標準テキスト 他				参考書			
履修上の 注意事項	すべての学生は、公務員希望者コースまたは本科目のどちらかを選択して履修しなければならない							
授業の計画(スケジュール)と授業の内容								
13:00～14:30 14:40～16:10	担当者(予定)			〈後期〉				
9月29日	救急救命士			第1回	呼吸不全 病態 評価 外来処置 気道確保と人工呼吸			
				第2回	心肺停止 原因 二次救命処置 特殊な蘇生法 心拍再開後の治療			
10月6日	救急救命士			第3回	アナフィラキシー 重症度判断 応急処置 ショック/気道閉塞への対応			
				第4回	熱中症 重症度の判断 冷却法			
10月13日	金子看護師			第5回	肺 炎 評価 細菌検査 外来処置 治療の概要			
				第6回	気管支喘息 評価 外来処置 気管支拡張薬			
10月20日	金子看護師			第7回	慢性呼吸器疾患 病態 評価 外来処置 NPPV			
				第8回	消化管出血 症候 鑑別 外来処置 内視鏡的止血			
10月27日	和泉看護師			第9回	急性冠症候群 評価 心電図 外来処置 再灌流療法			
				第10回	心不全 評価 外来処置 治療の概要			
11月10日	田中医師			第11回	動脈の急性病態 急性大動脈解離 大動脈瘤 急性四肢動脈閉塞			
				第12回	外 傷 多発外傷の評価 部位別の治療の概要 輸血			
11月17日	小山医師			第13回	意識障害 原因疾患 評価と鑑別 外来処置			
				第14回	ショック 種類と病態 外来処置 治療の概要			
11月24日	小山医師			第15回	脳卒中 種類 評価 画像診断 血栓溶解/回収療法			

令和8年4月1日発行

発行・編集 長野救命医療専門学校
救急救命士学科

〒389-0516 長野県東御市田中 66-1

連絡先: TEL0268-64-6699